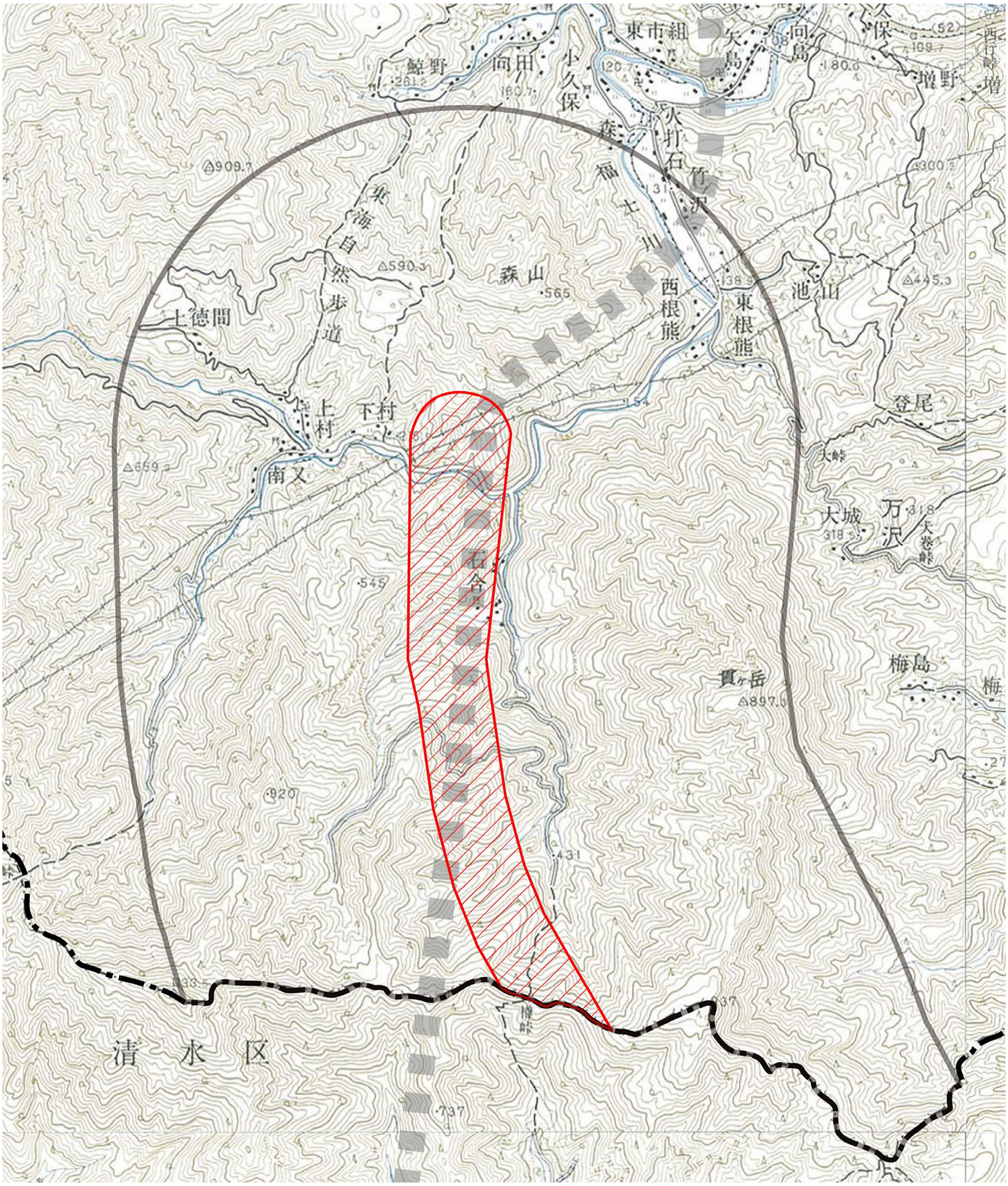
第２章　地域特性

2.1　地域特性を把握する地域

対象事業実施区域及びその周囲の概況を把握する地域は，これまでの送電線新設事業に係る環境影響評価の実績を基に，対象事業実施区域の中心から片側2kmの範囲とした。

地域特性を把握する調査地域は図2.1-1に示す範囲であり，自治体は山梨県南巨摩郡南部町（旧富沢町を含む）である。

なお，範囲内に適切な資料がない場合は調査地域を拡大したほか，環境要素の中で最も広範囲に影響が及ぶと考えられる景観資源については，調査地域外についても把握を行った。



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.1-1　地域特性を把握する地域

2.2　地域の自然的状況

2.2.1　大気環境

(1) 気象の状況

調査地域の最寄りの気象観測所は，南部地域気象観測所である。南部地域気象観測所の概要は表 2.2.1-1 に，位置は図 2.2.1-1 に示すとおりである。

「過去の気象データ検索」(気象庁ウェブサイト）による，当地点で観測された平成 20 年から平成 29 年の 10 年間における風向・風速，気温，月間降水量の平均値は，表 2.2.1-2 に示すとおりである。

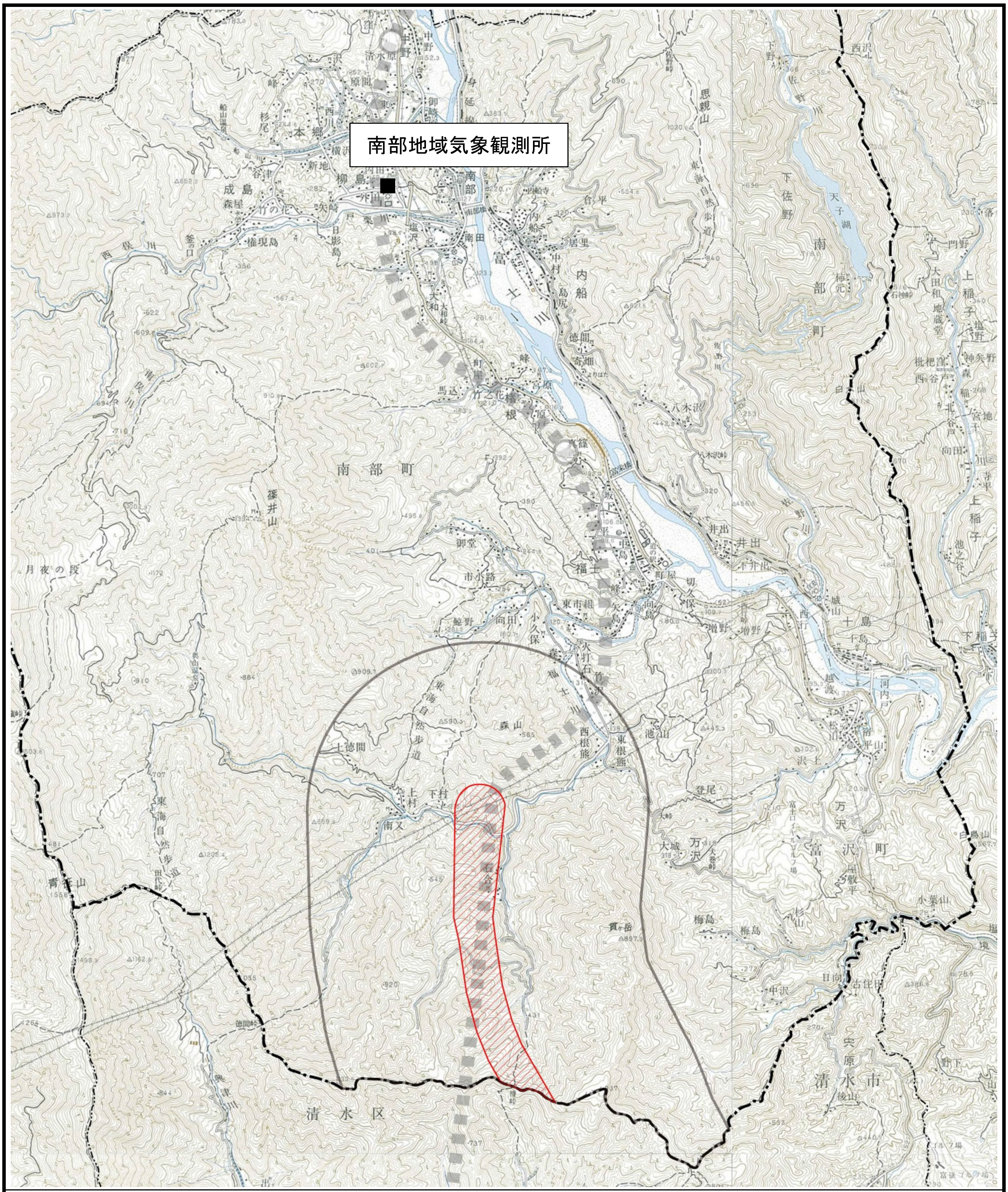
表 2.2.1-1　気象観測所の概要

名　称	所在地	標高	対象事業実施区域からの位置
南部地域気象観測所	南巨摩郡南部町南部	141m	北側約 8.2km

表 2.2.1-2　気象の観測結果（平成 20 年～平成 29 年）

月	風向・風速(m/s)			気温(℃)			月間降水量の平均(mm)
	月平均風速の平均	最大風速		月平均気温の平均	日最高気温の平均	日最低気温の平均	
		風速	風向				
1	1.4	6.5	北西	3.5	10.2	-1.3	82.3
2	1.6	7.2	東南東	5.1	11.1	0.4	177.3
3	1.7	8.9	南東	8.6	14.7	3.4	229.3
4	1.8	10.7	南東	13.7	19.7	8.5	297
5	1.8	7.3	南東	18.5	24.5	13.6	245.3
6	1.6	11.9	南東	21.7	26.4	18	258.1
7	1.7	7.1	南東	25.7	30.5	22.3	346.7
8	1.5	8.9	南東	26.6	31.8	23	286.4
9	1.5	14.2	南東	23.1	28.5	19.4	492.6
10	1.4	9.1	南東	17.7	23	14.1	318
11	1.4	5.9	南南東	11.3	17.3	7.1	172.8
12	1.4	7.1	南東	5.9	12.4	1.2	131
年間	1.6	14.2	南東	15.1	20.9	7.8	253.1

資料：「過去の気象データ検索」（気象庁ウェブサイト）による，南部地域気象観測所の観測結果



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）

：調査地域

：県境

：市区町境

：中部横断自動車道（事業中）

N

0　1km　2km　4km

1：80,000

図 2.2.1-1　気象観測所の位置

(2) 大気汚染の状況

調査地域の最寄りの大気汚染常時監視測定局は，南部一般環境大気測定局（以下,「南部測定局」という。）である。南部測定局の概要は表 2.2.1-3 に，位置は図 2.2.1-2 に示すとおりである。

また，ダイオキシン類の最寄りの測定局は，約 13km 離れた静岡県内の蒲原一般環境大気測定局（以下,「蒲原測定局」という。）であるが，山梨県内では約 45km 離れた吉田一般環境大気測定局（富士吉田合同庁舎）（以下，吉田測定局という。）が最寄りである。蒲原測定局及び吉田測定局の概要は表 2.2.1-4 に，位置は図 2.2.1-3 に示すとおりである。

なお，調査地域及びその周辺に自動車排出ガスの常時監視測定局はない。

表 2.2.1-3　南部測定局の概要

測定局区分	名称	所在地	測定項目			対象事業実施区域からの位置
			浮遊粒子状物質	二酸化窒素	光化学オキシダント	
一般環境 大気測定局	南部	南巨摩郡南部町 南部 9103-3	○	○	○	北側約 7.8km

表 2.2.1-4　蒲原測定局及び吉田測定局の概要

測定局区分	名称	行政	所在地	対象事業実施区域からの位置
一般環境 大気測定局	蒲原	静岡県	静岡市清水区蒲原新田 2-2319-1	南東側約 13km
一般環境 大気測定局	吉田	山梨県	富士吉田市上吉田 1-2-5 富士吉田合同庁舎	北東側約 45km

【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）

：中部横断自動車道（事業中）

：調査地域

：県境

：市区町境

N

0　1km　2km　4km

1：80,000

図 2.2.1-2　南部測定局の位置

図 2.2.1-3　蒲原測定局及び吉田測定局の位置

1）浮遊粒子状物質

「大気汚染の常時監視調査結果」（山梨県ウェブサイト）による，平成 25 年度から平成 29 年度の浮遊粒子状物質の測定結果は，表 2.2.1-5 に示すとおりである。平成 25 年度を除き，環境基準に適合していた。

表 2.2.1-5　浮遊粒子状物質の測定結果

項目／測定年度	年平均値	短期的評価					長期的評価		
		1 時間値が 0.2mg/m^3 を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.1mg/m^3 を超えた日数とその割合		評価注 1)	日平均値の 2%除外値	日平均値が 0.1mg/m^3 超えた日が 2 日以上連続したことの有無	評価注 2)
	(mg/m^3)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(○・×)	(mg/m^3)	(有×・無○)	(○・×)
平成 29 年度	0.012	0	0.0	0	0.0	○	0.034	○	○
平成 28 年度	0.012	0	0.0	0	0.0	○	0.032	○	○
平成 27 年度	0.014	0	0.0	0	0.0	○	0.042	○	○
平成 26 年度	0.015	0	0.0	0	0.0	○	0.049	○	○
平成 25 年度	0.017	5	0.1	2	0.6	×	0.067	×	×

資料：「大気汚染の常時監視調査結果」（山梨県ウェブサイト）による，南部測定局の測定結果

注 1）短期的評価は次の①及び②の両方に適合した場合が環境基準を「達成」と評価し「○」を示し，①及び②の両方，又はどちらかに適合しなかった場合は，環境基準を「非達成」と評価し「×」を示した。
①1 時間値が 0.2mg/m^3 以下，②日平均値が 0.1mg/m^3 以下

注 2）長期的評価は次の①及び②の両方に適合した場合が環境基準を「達成」と評価し「○」を示し，①及び②の両方，又はどちらかに適合しなかった場合は，環境基準を「非達成」と評価し「×」を示した。
①2%除外値が 0.1mg/m^3 以下，②日平均値が 0.1mg/m^3 超えた日が 2 日以上連続しないこと。

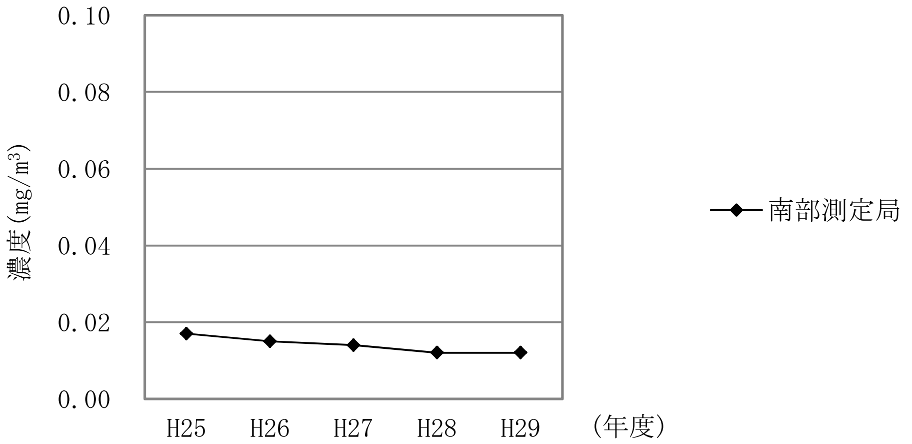


図 2.2.1-4　浮遊粒子状物質の年平均値の推移

2）二酸化窒素

「大気汚染の常時監視調査結果」（山梨県ウェブサイト）による，平成 25 年度から平成 29 年度の二酸化窒素の測定結果は，表 2.2.1-6 に示すとおりである。全ての年度で環境基準に適合していた。

表 2.2.1-6　二酸化窒素の測定結果

項目／測定年度	年平均値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		長期的評価[注1]		98%値評価による日平均値が 0.06ppm を超えた日数
				日平均値の年間 98%値	評価	
	(ppm)	（日）	（%）	(ppm)	（○・×）	（日）
平成 29 年度	0.004	0	0.0	0.009	○	0
平成 28 年度	0.004	0	0.0	0.009	○	0
平成 27 年度	0.005	0	0.0	0.010	○	0
平成 26 年度	0.005	0	0.0	0.012	○	0
平成 25 年度	0.005	0	0.0	0.012	○	0

資料：「大気汚染の常時監視調査結果」（山梨県ウェブサイト）による，南部測定局の測定結果

注）日平均値の年間 98%値が 0.06ppm 以下の場合，環境基準を「達成」と評価し「○」を示し，0.06ppm 超過の場合，環境基準を「非達成」と評価し「×」を示した。

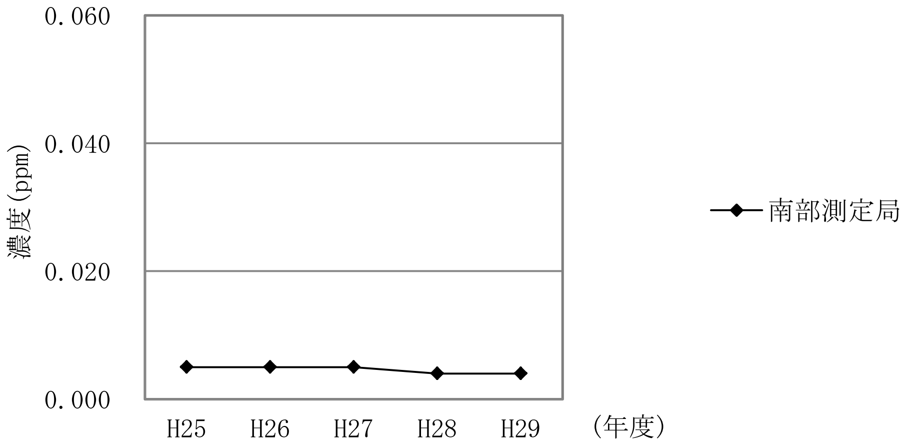


図 2.2.1-5　二酸化窒素 年平均値の推移

3）光化学オキシダント

「大気汚染の常時監視調査結果」（山梨県ウェブサイト）による，平成 25 年度から平成 29 年度の光化学オキシダントの測定結果は，表 2.2.1-7 に示すとおりである。全ての年度で環境基準に不適合であった。

表 2.2.1-7　光化学オキシダントの測定結果

項目／測定年度	昼間年平均値	短期的評価					日最高値の 1 時間値の年平均値
		昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数		昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数		評価注2	
	(ppm)	(時間)	(%)	(日)	(%)	(○・×)	(ppm)
平成 29 年度	0.035	519	9.6	90	24.7	×	0.050
平成 28 年度	0.033	442	8.6	74	21.3	×	0.047
平成 27 年度	0.034	533	9.8	91	25.0	×	0.049
平成 26 年度	0.034	527	9.7	91	25.0	×	0.049
平成 25 年度	0.029	251	4.8	58	16.3	×	0.042

資料：「大気汚染の常時監視調査結果」（山梨県ウェブサイト）による，南部測定局の測定結果

注 1）昼間は午前 5 時から午後 8 時までを示す。

注 2）環境基準に適合しているとは，1 時間値が 0.06ppm 以下であることを示す。

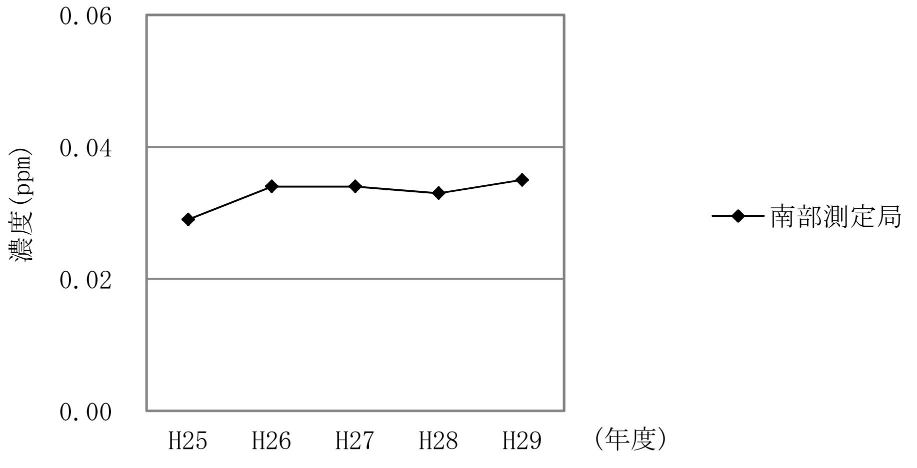


図 2.2.1-6　光化学オキシダント 年平均値の推移

4) ダイオキシン類

「大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県ウェブサイト）による，平成 27 年度から平成 29 年度の大気におけるダイオキシン類の測定結果並びに「ダイオキシン類の常時監視結果」（山梨県ウェブサイト）による，平成 25 年度から平成 29 年度の大気におけるダイオキシン類の測定結果は，表 2.2.1-8 に示すとおりである。蒲原測定局は，平成 27 年度に現在の位置に移設された測定局である。いずれの測定局においても，全ての年度で環境基準に適合していた。

表 2.2.1-8　大気におけるダイオキシン類の測定結果

項目 ＼ 測定年度	蒲原測定局		吉田測定局	
	年平均値	環境基準の評価	年平均値	環境基準の評価
	(pg-TEQ/m^3)	(○・×)	(pg-TEQ/m^3)	(○・×)
平成 29 年度	0.0079	○	0.0086	○
平成 28 年度	0.0100	○	0.0110	○
平成 27 年度	0.0200	○	0.0085	○
平成 26 年度			0.0140	○
平成 25 年度			0.0091	○

資料：「大気汚染及び水質汚濁等の状況」（静岡県ウェブサイト）による，蒲原測定局の測定結果
「ダイオキシン類の常時監視結果」（山梨県ウェブサイト）による，吉田測定局の測定結果
注 1) 環境基準の評価に適合しているとは，年平均値が 0.6pg-TEQ/m^3 以下であることを示す。
注 2) 年平均値は，年 4 回の測定値の平均である

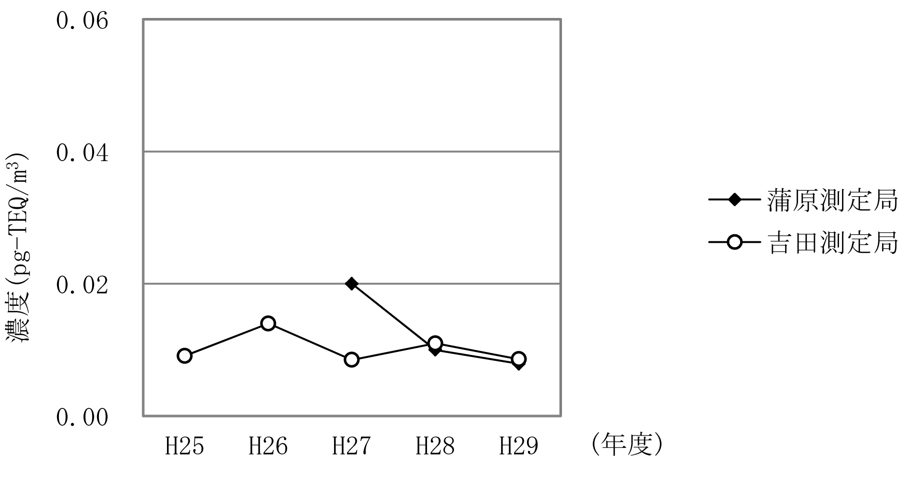


図 2.2.1-7　ダイオキシン類 年平均値の推移

5) 大気汚染に係る苦情の発生状況

「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）による，平成 24 年度から平成 28 年度における大気汚染に係る苦情の発生状況は，表 2.2.1-9 に示すとおりである。平成 28 年度における大気汚染に係る苦情は，山梨県全体で 204 件となっている。

表 2.2.1-9　大気汚染に係る苦情の発生状況

地域	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
山梨県	165	183	133	171	204

資料：「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）

2.2.2　悪　臭

(1) 悪臭の状況

1) 悪臭の状況

調査地域及びその周辺において，悪臭の調査に関する記録はない。

2) 悪臭に係る苦情の発生状況

「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」(山梨県）による，平成 24 年度から平成 28 年度における悪臭に係る苦情の発生状況は,表 2.2.2-1 に示すとおりである。平成 28 年度における悪臭に係る苦情は，山梨県全体で 100 件となっている。

表 2.2.2-1　悪臭に係る苦情の発生状況

地域	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
山梨県	124	103	86	97	100

資料：「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）

2.2.3　騒音・振動

(1) 騒音，振動の状況

1) 騒音，振動の状況

調査地域及びその周辺において，騒音，振動の調査に関する記録はない。

2) 騒音，振動に係る苦情の発生状況

「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」(山梨県）による，平成 24 年度から平成 28 年度における騒音，振動に係る苦情の発生状況は，表 2.2.3-1 に示すとおりである。平成 28 年度における騒音，振動に係る苦情は，山梨県全体で騒音が 110 件，振動が 3 件となっている。

表 2.2.3-1　騒音，振動に係る苦情の発生状況

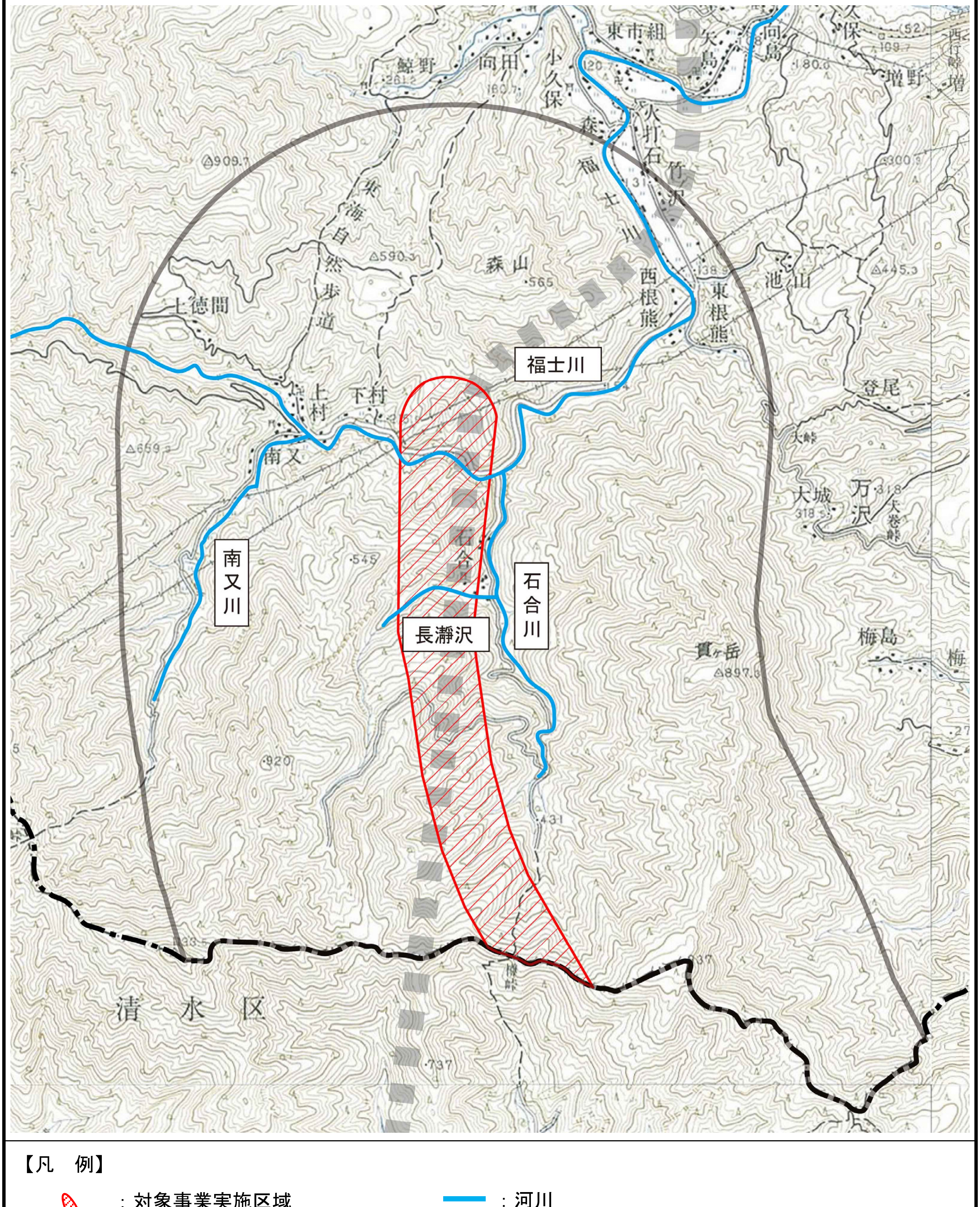
地域	項目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
山梨県	騒音	81	74	75	99	110
	振動	2	10	2	9	3

資料：「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）

2.2.4　水質汚濁

(1) 水象の状況

調査地域の主な河川は図 2.2.4-1 に示すとおりである。富士川水系の支川である福士川，石合川，長瀞沢，南又川が分布し，対象事業実施区域はこのうち福士川と長瀞沢を横断する。



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）

：調査地域

：県境

：中部横断自動車道（事業中）

：河川

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.4-1　主な河川

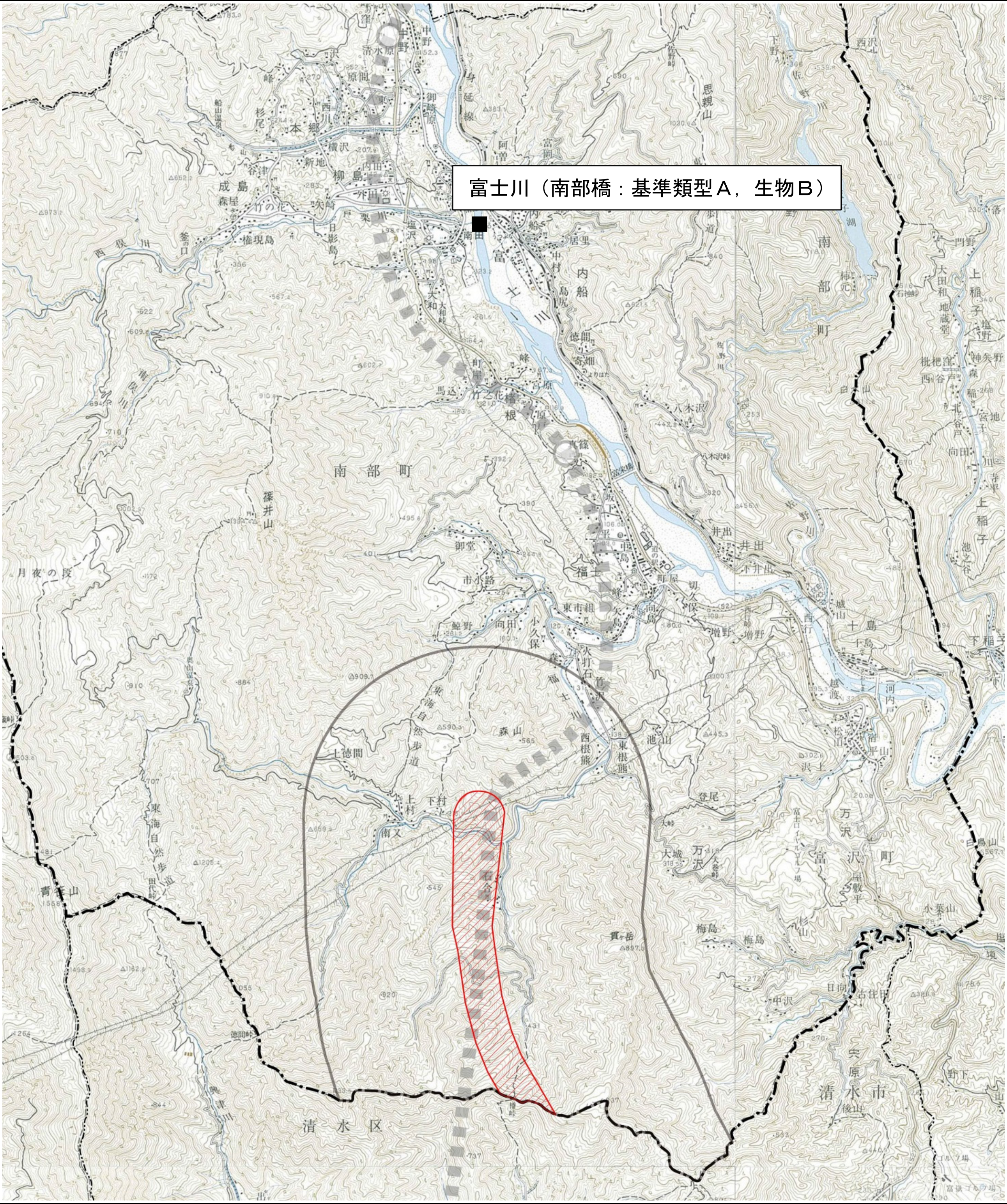
(2) 水質の状況

1) 河川水質

調査地域の最寄りの公共用水域水質測定地点は，図 2.2.4-2 に示す富士川（南部橋：基準類型Ａ，生物Ｂ）である。

「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）による水質測定結果は，表 2.2.4-1 に示すとおりである。pH,SS,大腸菌群数の一部を除き環境基準に適合していた。

また，ダイオキシン類についても同地点において測定が行われている。その測定結果は，表 2.2.4-2 に示すとおりであり，環境基準に適合していた。



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：中部横断自動車道（事業中）
：調査地域
：県境
：市区町境

N

0　1km　2km　4km

1：80,000

図 2.2.4-2　水質測定地点の位置

表 2.2.4-1　河川水質測定結果

測定項目		単位	測定値	環境基準値
生活環境項目	pH	-	7.7～8.8	6.5～8.5
	DO	mg/l	7.8～12	7.5 mg/l 以上
	BOD	mg/l	<0.5～0.9	2 mg/l 以下
	COD	mg/l	1.0～1.5	-
	SS	mg/l	<1～43	25 mg/l 以下
	大腸菌群数	MPN/100 ml	330～23,000	1,000 MPN/100 ml 以下
	全窒素	mg/l	0.94～1.2	-
	全燐	mg/l	0.044～0.081	-
	全亜鉛	mg/l	0.001～0.006	0.03 mg/l 以下
	ノニルフェノール	mg/l	<0.00006	0.002 mg/l 以下
	LAS	mg/l	0.0001～0.0010	0.05 mg/l 以下
健康項目	カドミウム	mg/l	<0.0003	0.003 mg/l 以下
	全シアン	mg/l	<0.1	検出されないこと
	鉛	mg/l	<0.001	0.01 mg/l 以下
	六価クロム	mg/l	<0.005	0.05 mg/l 以下
	ヒ素	mg/l	0.001	0.01 mg/l 以下
	総水銀	mg/l	<0.0005	0.0005 mg/l 以下
	アルキル水銀	mg/l	-	検出されないこと
	PCB	mg/l	<0.0005	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/l	<0.0002	0.02 mg/l 以下
	四塩化炭素	mg/l	<0.0002	0.002 mg/l 以下
	1,2-ジクロロエタン	mg/l	<0.0002	0.004 mg/l 以下
	1,1-ジクロロエチレン	mg/l	<0.0002	0.1 mg/l 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/l	<0.0002	0.04 mg/l 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/l	<0.0002	1 mg/l 以下
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/l	<0.0002	0.006 mg/l 以下
	トリクロロエチレン	mg/l	<0.0002	0.01 mg/l 以下
	テトラクロロエチレン	mg/l	<0.0002	0.01 mg/l 以下
	1,3-ジクロロプロペン	mg/l	<0.0002	0.002 mg/l 以下
	チウラム	mg/l	<0.0006	0.006 mg/l 以下
	シマジン	mg/l	<0.0003	0.003 mg/l 以下
	チオベンカルブ	mg/l	<0.0003	0.02 mg/l 以下
	ベンゼン	mg/l	<0.0002	0.01 mg/l 以下
	セレン	mg/l	<0.001	0.01 mg/l 以下
	硝酸性窒素	mg/l	0.91～1.2	-
	亜硝酸性窒素	mg/l	<0.005～0.028	-
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/l	0.91～1.2	10 mg/l 以下
	ふっ素	mg/l	0.06～0.11	0.8 mg/l 以下
	ほう素	mg/l	0.04	1 mg/l 以下
	1,4-ジオキサン	mg/l	<0.005	0.05 mg/l 以下

資料：「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）による，富士川（南部橋：基準類型Ａ，生物Ｂ）の測定結果

表 2.2.4-2　河川水中におけるダイオキシン類の測定結果

調査地点	採取年月日	調査結果 (pg-TEQ/L)	環境基準 (pg-TEQ/L)
富士川（南部橋）	平成 28 年 10 月 31 日	0.069	1

資料：「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）

2) 水質汚濁に係る苦情の発生状況

「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）による，平成 24 年度から平成 28 年度における水質汚濁に係る苦情の発生状況は,表 2.2.4-3 に示すとおりである。平成 28 年度における水質汚濁に係る苦情は，山梨県全体で 91 件となっている。

表 2.2.4-3　水質汚濁に係る苦情の発生状況

地域	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
山梨県	103	122	117	96	91

資料：「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）

(3) 地下水の状況

「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）によると，山梨県では，過去に環境基準を超過した 36 地点について継続監視調査が行われており，調査地域の最寄りでは 1 地点の井戸が対象になっている。調査結果は，表 2.2.4-4 に示すとおりであり，環境基準に適合していた。

表 2.2.4-4　地下水の測定結果

井戸所在地	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素			環境基準値
	1 回目	2 回目	年間平均	
南部町本郷	3.7	11	7.4	10

資料：「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）

(4) 水底の底質の状況

「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）によると，河川水質と同調査地点（富士川（南部橋））において，底質のダイオキシン類の測定が行われている。測定結果は，表 2.2.4-5 に示すとおりであり，環境基準に適合していた。

表 2.2.4-5　水底の底質中におけるダイオキシン類の測定結果

調査地点	採取年月日	調査結果 (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
富士川（南部橋）	平成 28 年 10 月 31 日	0.21	150

資料：「平成 28 年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（平成 30 年．山梨県）

2.2.5　土　壌

(1) 土壌の状況

「土地分類基本調査　南部・富士宮・清水」(平成2年．山梨県農務部農村整備課）による調査地域の土壌図は，図2.2.5-1に示すとおりである。調査地域には，褐色森林土壌（富沢3統，岳辺田統)，乾性褐色森林土壌（富沢2統)，湿性褐色森林土壌（富沢4統）等が分布している。

(2) 土壌汚染の状況

調査地域及び周辺において，土壌汚染に関する記録はない。

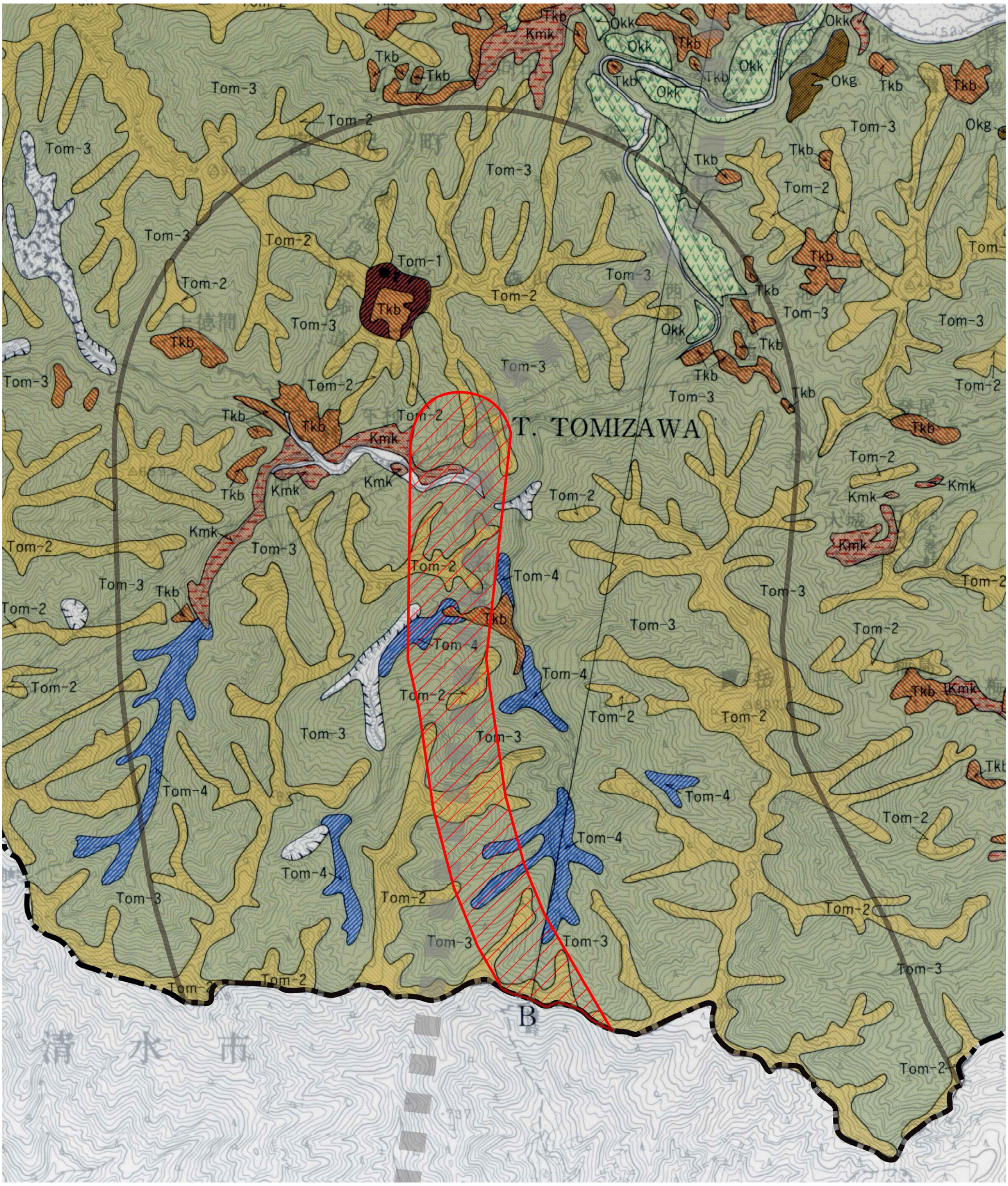
(3) 土壌汚染に係る苦情の発生状況

「やまなしの環境2013（平成25年度版）～2017（平成29年度版)」(山梨県）による，平成24年度から平成28年度における土壌汚染に係る苦情の発生状況は，表2.2.5-1に示すとおりである。平成28年度における土壌汚染に係る苦情は，山梨県全体で2件となっている。

表2.2.5-1　土壌汚染に係る苦情の発生状況

地域	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
山梨県	4	7	2	0	2

資料：「やまなしの環境2013（平成25年度版）～2017（平成29年度版）」（山梨県）



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）

山地および丘陵地の土壌
- 岩石地
- Tom-1 黒ボク土壌（富沢1統）
- Tom-2 乾性褐色森林土壌（富沢2統）
- Tom-3 褐色森林土壌（富沢3統）
- Tom-4 湿性褐色森林土壌（富沢4統）

台地および低地の土壌
- Okg 黒ボク土壌（大川口統）
- Tkb 褐色森林土壌（岳辺田統）
- Kmk 褐色森林土壌（小向統）
- Okk 細粒灰色低地土壌（追子野木統）

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.5-1　土壌図

「土地分類基本調査　南部・富士宮・清水」（平成２年．山梨県農務部農村整備課）の土壌図を基に作成

2.2.6　地盤沈下

(1) 地盤沈下の状況

地盤沈下の主たる原因は地下水の過剰採取であり，また，起こった地盤沈下は，地下水位が回復してもほとんど元に戻らないといわれている。地質的に沖積層が厚く堆積した場所で起こりやすく，山梨県では甲府盆地の中央部から南部がこれに該当する。

なお，調査地域に地盤沈下の対策として行われている一級水準測量調査及び地下水位観測の調査地点はない。

(2) 地盤沈下に係る苦情の発生状況

「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版)」(山梨県）による，平成 24 年度から平成 28 年度における地盤沈下に係る苦情の発生状況は，表 2.2.6-1 に示すとおりである。平成 28 年度における地盤沈下に係る苦情は，山梨県全体で 0 件となっている。

表 2.2.6-1　地盤沈下に係る苦情の発生状況

地域	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
山梨県	0	1	0	0	0

資料：「やまなしの環境 2013（平成 25 年度版）～2017（平成 29 年度版）」（山梨県）

2.2.7　地形及び地質

(1) 地形の状況

1) 山梨県の地形の状況

「山梨県の概要」（山梨県ウェブサイト）によると，山梨県は本州のほぼ中央に位置し，中心部の甲府盆地を除いて平地部は極めて少なく，総面積の約 86%が山地である。

北部から東部にかけては甲武信岳をはじめとする関東山地が，その南には道志山地・御坂山地が連なり，西には赤石山脈，南部には富士山に代表される高峻な山岳に囲まれている。

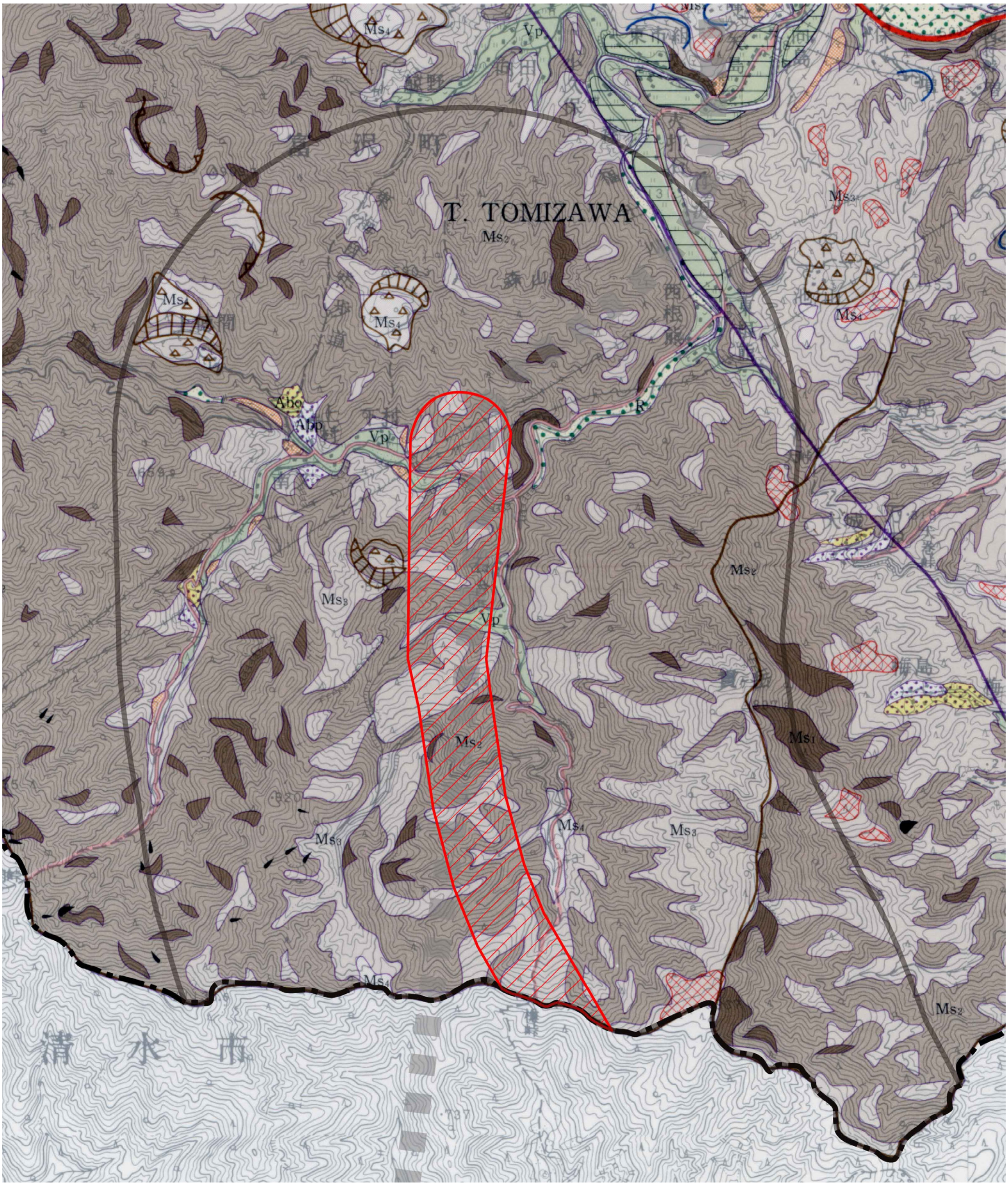
2) 地形の状況

「土地分類基本調査　南部・富士宮・清水」（平成 2 年．山梨県農務部農村整備課）による調査地域の地形は，図 2.2.7-1 に示すとおりである。調査地域には，40°以下の山地斜面が広く分布し，一部に地すべり性崩落崖および崩落物質堆積面が存在する。また，福士川沿いの低地は，相対的に連続性の良い，まとまった谷底平野となっている。

3) 特筆すべき地形の状況

以下の①～⑤に示す資料により重要な地形を選定したところ，調査地域に特筆すべき地形は認められなかった。

①「日本の地形レッドデータブック第 1 集－危機にある地形－」（平成 12 年．古今書院）
②「日本の地形レッドデータブック第 2 集－保存すべき地形－」（平成 14 年．古今書院）
③「文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号)」に基づき指定された特別天然記念物・天然記念物
④「文化財保護条例（昭和 31 年 4 月 9 日．山梨県条例第 29 号)」に基づき指定された天然記念物
⑤「南部町文化財保護条例（平成 15 年 3 月 1 日．条例第 92 号)」に基づき指定された天然記念物



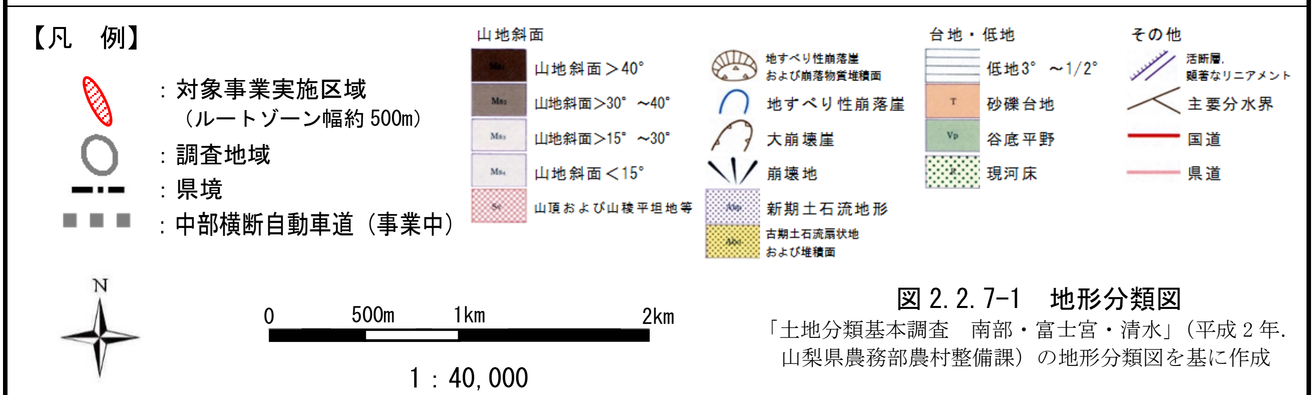


図 2.2.7-1　地形分類図

「土地分類基本調査　南部・富士宮・清水」（平成 2 年.
山梨県農務部農村整備課）の地形分類図を基に作成

(2) 地質の状況

1) 山梨県の地質の状況

「山梨県の概要」(山梨県ウェブサイト)によると，山梨県はフォッサマグナ(静岡－糸魚川構造線)の南部に位置し，周辺には多くの断層支派線が分布している。最も古い地層は中生代から新生代古第三紀にかけて堆積した四万十層群であり，南アルプスと関東山地に分布し，激しい褶曲作用を受けている。次に堆積したのが新生代第三紀中新世の御阪層群で，主として緑色凝灰岩類からなり，御坂山地や巨摩山地に分布している。続いて，新生代第三紀中新世から鮮新世にかけて，泥岩・砂岩・礫岩を中心とした富士川層群が峡南地域に堆積した。これらはいずれも海成層で，生成後に陸化を伴う構造運動を受け，崩壊や地すべりを引き起こしやすい脆弱な地質となっている。県中央部から北部にかけては，第三紀に貫入したと考えられる深成岩類(花崗岩)が広く分布している。新生代第三紀の末期から第四紀にかけて甲府盆地の北部で水ヶ森火山・黒富士火山・八ヶ岳火山が相次いで活動し，これらの火山噴出物は深成岩を覆って堆積している。甲府盆地内の堆積物は，砂礫層が優勢で粘土層が少ないという特徴があり,甲府盆地の沈降と周辺山地の隆起という相対的な地盤の運動が激しかったことを示している。

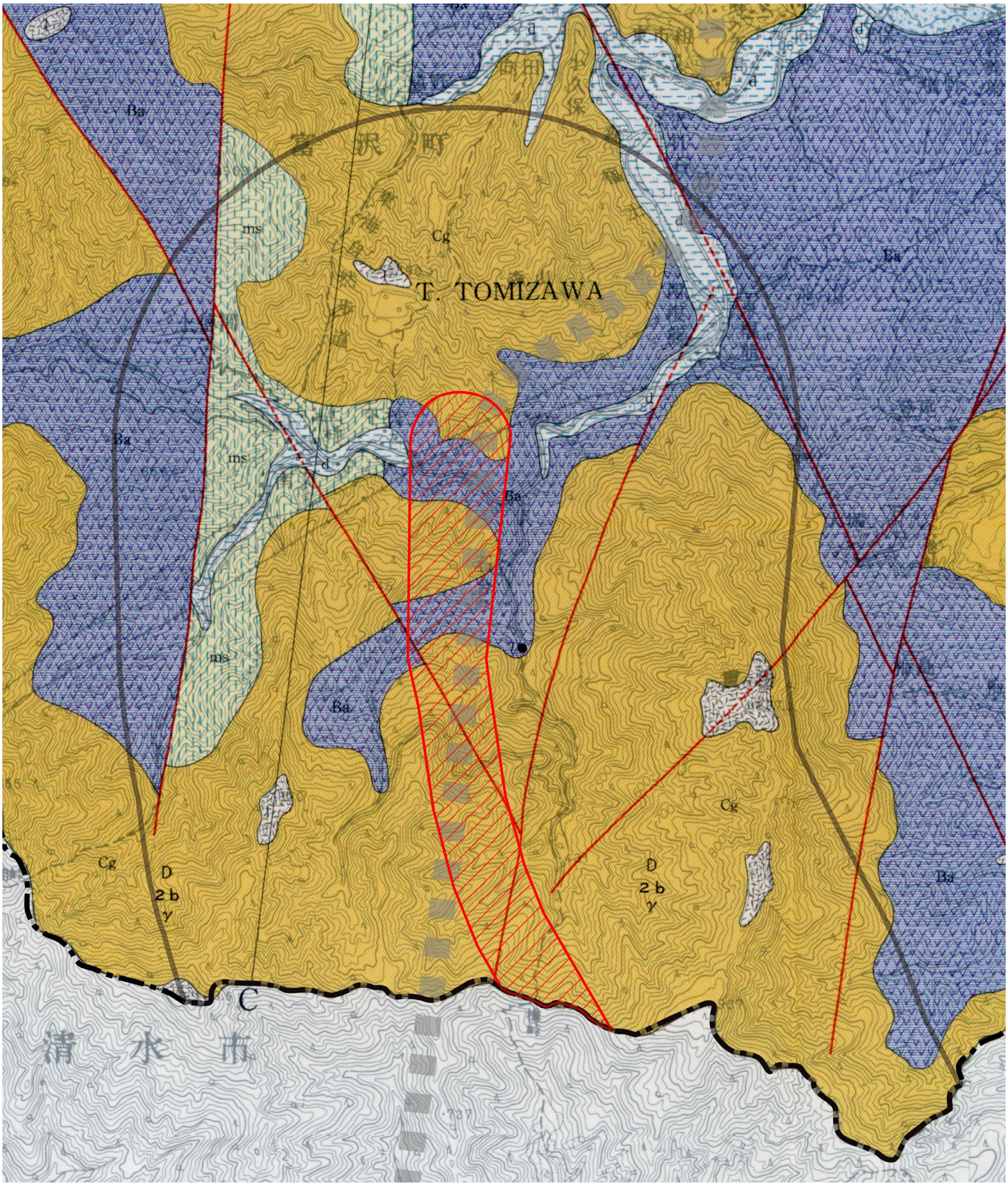
2) 地質の状況

「土地分類基本調査　南部・富士宮・清水」(平成 2 年．山梨県農務部農村整備課)による調査地域の表層地質は，図 2.2.7-2 に示すとおりである。調査地域には，洪積世の礫岩・砂岩及び新第三紀の玄武岩質熔岩・同質火山砕屑岩が広く分布する。

3) 特筆すべき地質の状況

以下の①～⑤に示す資料により重要な地質を選定したところ,調査地域に特筆すべき地質は認められなかった。

①「日本の地形レッドデータブック第 1 集－危機にある地形－」(平成 12 年．古今書院)
②「日本の地形レッドデータブック第 2 集－保存すべき地形－」(平成 14 年．古今書院)
③「文化財保護法(昭和 25 年．法律第 214 号)」に基づき指定された特別天然記念物・天然記念物
④「文化財保護条例(昭和 31 年 4 月 9 日．山梨県条例第 29 号)」に基づき指定された天然記念物
⑤「南部町文化財保護条例(平成 15 年 3 月 1 日．条例第 92 号)」に基づき指定された天然記念物



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）

未固結堆積物
砂礫質沖積層
砕屑質沖積層・扇状地堆積物

半固結堆積物
ローム層
礫岩・砂岩

固結岩類
泥岩・砂岩・玄武岩質溶岩・同質火山砕屑岩
玄武岩質溶岩・同質火山砕屑岩

その他
断層および推定断層あるいは断層（潜在）

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.7-2　表層地質図

「土地分類基本調査　南部・富士宮・清水」（平成 2 年.
山梨県農務部農村整備課）の表層地質図を基に作成

2.2.8　動植物・生態系

（1）植物の状況

1）植物種

「山梨県の植物分布」（平成 19 年．小林岳編）によると，調査地域には表 2.2.8-1(1)～(12)に示す 133 科 593 種の植物が確認されている。暖帯の山地に生育する種が多いが，ブナやオオイタヤメイゲツ等の温帯の山地に生育する種も確認されている。

表 2.2.8-1(1)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ科	トウゲシバ					
2		イワヒバ科	カタヒバ					
3			イワヒバ					
4		ハナヤスリ科	フユノハナワラビ					
5		マツバラン科	マツバラン			NT	CR	
6		トクサ科	スギナ					
7		ゼンマイ科	ゼンマイ					
8			ヤシャゼンマイ					
9		ウラジロ科	コシダ					
10			ウラジロ					
11		カニクサ科	カニクサ					
12		キジノオシダ科	キジノオシダ					
13		ホングウシダ科	ホラシノブ					
14		コバノイシカグマ科	フモトシダ					
15			ワラビ					
16		イノモトソウ科	ハコネシダ					
17			クジャクシダ					
18			オオバノイノモトソウ					
19			アマクサシダ				VU	
20			オオバノハチジョウシダ				VU	
21			イノモトソウ					
22		ヒメシダ科	ホシダ					
23			ゲジゲジシダ					
24			ハリガネワラビ					
25			ヒメワラビ					
26		イワデンダ科	ウスヒメワラビ				DD	
27			イヌワラビ					
28			ヘビノネゴザ					
29			ナヨシダ				VU	
30			ヘラシダ				EN	
31			ミヤマシケシダ					
32			ノコギリシダ				CR	
33			フクロシダ					
34			イワデンダ					
35		シシガシラ科	シシガシラ					
36			コモチシダ				VU	
37		コウヤワラビ科	クサソテツ					
38			イヌガンソク					
39		オシダ科	ハカタシダ				NT	
40			リョウメンシダ					
41			メヤブソテツ					
42			ヤブソテツ					
43			ベニシダ					
44			クマワラビ					

表 2.2.8-1(2)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
45	シダ植物	オシダ科	イワイタチシダ					
46			オクマワラビ					
47			ツルデンダ					
48			イノデ					
49			ジュウモンジシダ					
50		シノブ科	シノブ					
51		ウラボシ科	アオネカズラ				EN	
52			マメヅタ					
53			ミヤマノキシノブ					
54			サジラン				VU	
55			クリハラン				CR	
56			ヒトツバ				EN	
57			ミヤマウラボシ					
58	裸子植物	マツ科	モミ					
59			イラモミ					
60			アカマツ					
61			ヒメコマツ					
62			ツガ					
63		ヒノキ科	ヒノキ					
64			スギ				EN	
65			アスナロ					
66		イヌガヤ科	イヌガヤ					
67		イチイ科	カヤ					
68	被子植物	マツブサ科	シキミ				VU	
69	基底群		サネカズラ				VU	
70			マツブサ					
71		センリョウ科	ヒトリシズカ					
72			フタリシズカ					
73	被子植物	ドクダミ科	ドクダミ					
74	モクレン類	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ属					
75			ランヨウアオイ				EN	
76			カギガタアオイ			EN	VU	
77			カンアオイ				EN	
78		モクレン科	ホオノキ					
79		クスノキ科	クスノキ					
80			ヤブニッケイ					
81			カナクギノキ				VU	
82			ヤマコウバシ					
83			アブラチャン					
84			クロモジ					
85			カゴノキ				VU	
86			タブノキ					
87			シロダモ					
88	被子植物	サトイモ科	スルガテンナンショウ					
89	単子葉類		カラスビシャク					
90		オモダカ科	オモダカ					
91		ヒルムシロ科	ヒルムシロ					
92		ヤマノイモ科	ヤマノイモ					
93			ヒメドコロ					
94			オニドコロ					
95		シュロソウ科	ツクバネソウ					
96			エンレイソウ					

表 2.2.8-1(3)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
97	被子植物	シュロソウ科	ミヤマエンレイソウ					
98	単子葉類		タカネアオヤギソウ					
99		イヌサフラン科	ホウチャクソウ					
100			チゴユリ					
101			オオチゴユリ					
102		サルトリイバラ科	サルマメ					
103			サルトリイバラ					
104			シオデ					
105		ユリ科	アマナ				NT	
106			ウバユリ					
107			ヤマユリ					
108			ササユリ				CR	
109			ヤマジノホトトギス					
110			ホトトギス					
111			ヤマホトトギス					
112		ラン科	シラン			NT	CR	
113			エビネ			NT	VU	
114			シュンラン					
115			クマガイソウ			VU	EN	
116			ミヤマウズラ					
117			クモキリソウ					
118			コフタバラン					
119			ヨウラクラン				VU	
120			ツレサギソウ				EN	
121			ナゴラン			EN		
122			クモラン				CR	
123			カヤラン				EN	
124		アヤメ科	シャガ					
125		ススキノキ科	ヤブカンゾウ					
126		ヒガンバナ科	ヤマラッキョウ					
127			ヒガンバナ					
128		キジカクシ科	ツルボ					
129			トウギボウシ					
130			コバギボウシ					
131			ヤブラン					
132			マイヅルソウ					
133			ユキザサ					
134			ジャノヒゲ					
135		ヤシ科	シュロ					
136		ツユクサ科	ツユクサ					
137			ヤブミョウガ					
138		ショウガ科	ハナミョウガ				VU	
139		ガマ科	ガマ					
140		カヤツリグサ科	イトテンツキ			NT		
141			ヒエスゲ					
142			カンスゲ					
143			ホソバカンスゲ					
144			タガネソウ					
145			アゼスゲ					
146			タマガヤツリ					
147			コアゼガヤツリ					
148			テンツキ					

表 2.2.8-1(4)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
149	被子植物 単子葉類	カヤツリグサ科	ヒデリコ					
150			アゼテンツキ					
151		イネ科	スズメノテッポウ					
152			コブナグサ					
153			カズノコグサ					
154			ヤマカモジグサ					
155			ヒメノガリヤス					
156			メヒシバ					
157			アキメヒシバ					
158			アオカモジグサ					
159			カモジグサ					
160			ナルコビエ					
161			ウラハグサ					
162			アシボソ					
163			ススキ					
164			チヂミザサ					
165			モウソウチク					
166			アズマネザサ					
167			メダケ					
168			スズメノカタビラ					
169			スズタケ					
170			ナンブスズ					
171			イブキザサ					
172			キンエノコロ					
173			エノコログサ					
174			アブラススキ					
175			メガルカヤ					
176			カニツリグサ					
177	被子植物 真正双子葉類	フサザクラ科	フサザクラ					
178		ケシ科	クサノオウ					
179			ムラサキケマン					
180			タケニグサ					
181		アケビ科	アケビ					
182			ミツバアケビ					
183			ムベ				EN	
184		ツヅラフジ科	アオツヅラフジ					
185			ツヅラフジ					
186		メギ科	ナンテン					
187		キンポウゲ科	ヤマトリカブト					
188			シュウメイギク					
189			ボタンヅル					
190			ハンショウヅル					
191			センニンソウ					
192			ツルシロカネソウ				NT	
193			ウマノアシガタ					
194			キツネノボタン					
195			カラマツソウ					
196			アキカラマツ					
197		アワブキ科	アワブキ					
198			ミヤマハハソ					
199		ヤマグルマ科	ヤマグルマ					
200		ツゲ科	フッキソウ				NT	

表 2.2.8-1(5)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
201	被子植物	ボタン科	ヤマシャクヤク			NT	NT	
202	真正双子葉類	カツラ科	カツラ					
203		ユズリハ科	ユズリハ				EN	
204		ユキノシタ科	ハナチダケサシ					
205			アカショウマ					
206			イワボタン					
207			ジンジソウ				NT	
208			イワユキノシタ				NT	
209		ベンケイソウ科	ホソバノキリンソウ					
210			メノマンネングサ					
211		ブドウ科	ノブドウ					
212			ツタ					
213			サンカクヅル					
214		マメ科	ネムノキ					
215			ヤブマメ					
216			ゲンゲ					
217			フジキ					
218			ノササゲ					
219			フジカンゾウ					
220			ヌスビトハギ					
221			コマツナギ					
222			ヤハズソウ					
223			ヤマハギ					
224			キハギ					
225			メドハギ					
226			クズ					
227			ハリエンジュ					
228			シロツメクサ					
229			ヤハズエンドウ					
230			カスマグサ					
231			フジ					
232		バラ科	キンミズヒキ					
233			ヤマブキショウマ					
234			マメザクラ					
235			ヤマザクラ					
236			ダイコンソウ					
237			ヤマブキ					
238			ズミ					
239			コゴメウツギ					
240			カナウツギ				VU	
241			ウワミズザクラ					
242			キジムシロ					
243			ミツバツチグリ					
244			ヘビイチゴ					
245			ツルキンバイ					
246			カマツカ					
247			テリハノイバラ					
248			フユイチゴ					
249			クマイチゴ					
250			クサイチゴ					
251			バライチゴ					
252			モミジイチゴ					

表 2.2.8-1(6)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
253	被子植物	バラ科	ナワシロイチゴ					
254	真正双子葉類		ワレモコウ					
255			ナナカマド					
256			ナンキンナナカマド					
257			シモツケ					
258		グミ科	ツルグミ					
259		クロウメモドキ科	クマヤナギ					
260		ニレ科	ケヤキ					
261		アサ科	エノキ					
262		クワ科	コウゾ					
263			クワクサ					
264			イタビカズラ				VU	
265			ヤマグワ					
266		イラクサ科	ハマヤブマオ					
267			ヤブマオ					
268			カラムシ					
269			コアカソ					
270			ウワバミソウ					
271			ミズ					
272			ヤマミズ					
273			アオミズ					
274			イラクサ					
275		ブナ科	クリ					
276			スダジイ				VU	
277			ブナ					
278			イヌブナ					
279			アカガシ				VU	
280			ミズナラ					
281			アラカシ					
282			シラカシ					
283			ウラジロガシ					
284			コナラ					
285			ツクバネガシ					
286		クルミ科	オニグルミ					
287			サワグルミ					
288		カバノキ科	ヤシャブシ					
289			ヤマハンノキ					
290			ミズメ					
291			ウダイカンバ					
292			サワシバ					
293			クマシデ					
294			アカシデ					
295			イヌシデ					
296			ツノハシバミ					
297		ドクウツギ科	ドクウツギ					
298		ウリ科	アマチャヅル					
299			アレチウリ					
300			カラスウリ					
301		ニシキギ科	ツルウメモドキ					
302			ツルマサキ					
303			マユミ					
304			ヒロハノツリバナ					

表 2.2.8-1(7)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
305	被子植物	ニシキギ科	ツリバナ					
306	真正双子葉類	カタバミ科	カタバミ					
307		トウダイグサ科	エノキグサ					
308			オオニシキソウ					
309			ナツトウダイ					
310			アカメガシワ					
311			シラキ					
312		ヤナギ科	イイギリ					
313			ヤマナラシ					
314			バッコヤナギ					
315			イヌコリヤナギ					
316			シバヤナギ					
317			オノエヤナギ					
318		スミレ科	ナガバノスミレサイシン					
319			タチツボスミレ					
320			スミレ					
321			コミヤマスミレ				VU	
322			アケボノスミレ					
323			シコクスミレ					
324			フモトスミレ					
325			ゲンジスミレ					
326			シハイスミレ					
327			ノジスミレ					
328		オトギリソウ科	オトギリソウ					
329			サワオトギリ					
330		フウロソウ科	アメリカフウロ					
331			ゲンノショウコ					
332		アカバナ科	ヤナギラン					
333			タニタデ					
334			ミズタマソウ					
335			イワアカバナ					
336			アレチマツヨイグサ					
337			マツヨイグサ					
338		ミツバウツギ科	ゴンズイ				EN	
339			ミツバウツギ					
340		キブシ科	キブシ					
341		ウルシ科	ヌルデ					
342			ヤマハゼ					
343			ヤマウルシ					
344		ムクロジ科	オオモミジ					
345			アサノハカエデ					
346			ホソエカエデ					
347			チドリノキ					
348			ミツデカエデ					
349			ウリカエデ					
350			カジカエデ					
351			ハウチワカエデ					
352			メグスリノキ					
353			コミネカエデ					
354			イロハモミジ					
355			イタヤカエデ					
356			エンコウカエデ					

表 2.2.8-1(8)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
357	被子植物	ムクロジ科	ウリハダカエデ					
358	真正双子葉類		オオイタヤメイゲツ					
359			ヒナウチワカエデ					
360		ミカン科	マツカゼソウ					
361			コクサギ					
362			キハダ					
363			ミヤマシキミ					
364			カラスザンショウ				VU	
365			サンショウ					
366			イヌザンショウ					
367		ニガキ科	ニガキ					
368		アオイ科	カラスノゴマ					
369			シナノキ					
370		ジンチョウゲ科	ミツマタ					
371		アブラナ科	ヤマハタザオ					
372			ナズナ					
373			ミツバコンロンソウ					
374			タネツケバナ					
375			イヌガラシ					
376		タデ科	イタドリ					
377			ミズヒキ					
378			イヌタデ					
379			タニソバ					
380			オオケタデ					
381			イシミカワ					
382			ボントクタデ					
383			ウナギツカミ					
384			ミゾソバ					
385			スイバ					
386			ナガバギシギシ					
387			ギシギシ					
388			エゾノギシギシ					
389		ナデシコ科	ハマナデシコ					
390			ノミノツヅリ					
391			カワラナデシコ					
392			ウシハコベ					
393			サワハコベ					
394			コハコベ					
395			ノミノフスマ					
396		ヒユ科	イノコヅチ					
397			イヌビユ					
398			アカザ					
399			アメリカアリタソウ					
400		ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ					
401		スベリヒユ科	スベリヒユ					
402		ミズキ科	ウリノキ					
403			ミズキ					
404			クマノミズキ					
405		アジサイ科	ギンバイソウ					
406			ウツギ					
407			マルバウツギ					
408			ウメウツギ			VU	VU	

表 2.2.8-1(9)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
409	被子植物	アジサイ科	コアジサイ					
410	真正双子葉類		タマアジサイ					
411			ノリウツギ					
412			ツルアジサイ					
413			ガクウツギ					
414			ヤマアジサイ					
415			イワガラミ					
416		ツリフネソウ科	キツリフネ					
417		ペンタフィラクス科	サカキ					
418			ヒサカキ					
419		サクラソウ科	マンリョウ					
420			ヤブコウジ					
421			オカトラノオ					
422			コナスビ					
423		ツバキ科	ヤブツバキ					
424			ヒメシャラ					
425			ナツツバキ					
426		ハイノキ科	タンナサワフタギ					
427			サワフタギ					
428		イワウメ科	ヤマイワカガミ					
429			イワカガミ					
430		エゴノキ科	エゴノキ					
431			ハクウンボク					
432		マタタビ科	サルナシ					
433			マタタビ					
434		リョウブ科	リョウブ					
435		ツツジ科	サラサドウダン					
436			ハナヒリノキ					
437			ギンリョウソウ					
438			アセビ					
439			ミツバツツジ					
440			サツキ				CR	
441			ヤマツツジ					
442			ヒカゲツツジ					
443			キヨスミミツバツツジ					
444			モチツツジ					
445			シロヤシオ				VU	
446			トウゴクミツバツツジ					
447			スノキ					
448		ガリア科	アオキ					
449		アカネ科	アリドオシ				CR	
450			ヤマムグラ					
451			ヤエムグラ					
452			ヘクソカズラ					
453			アカネ					
454		リンドウ科	リンドウ					
455			アケボノソウ					
456			ツルリンドウ					
457		キョウチクトウ科	ガガイモ					
458			テイカカズラ					
459			コカモメヅル				EN	
460			コバノカモメヅル					

表 2.2.8-1(10)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
461	被子植物	ムラサキ科	サワルリソウ				EN	
462	真正双子葉類		ホタルカズラ					
463			キュウリグサ					
464		ナス科	クコ					
465			ヒヨドリジョウゴ					
466			ハダカホオズキ					
467		モクセイ科	アオダモ					
468			ヤマシオジ					
469			マルバアオダモ					
470			イボタノキ					
471			ヒイラギ					
472		イワタバコ科	イワタバコ					
473		オオバコ科	オオバコ					
474			タチイヌノフグリ					
475			オオイヌノフグリ					
476		ゴマノハグサ科	フジウツギ					
477			ヒナノウスツボ					
478			オオヒナノウスツボ					
479		シソ科	キランソウ					
480			ヤマジオウ					
481			ムラサキシキブ					
482			ヤブムラサキ					
483			クサギ					
484			トウバナ					
485			ミヤマトウバナ					
486			テンニンソウ					
487			カキドオシ					
488			ヤマハッカ					
489			ヒキオコシ					
490			コウシンヤマハッカ					
491			シモバシラ					
492			ホトケノザ					
493			ハッカ					
494			ヒメジソ					
495			レモンエゴマ					
496			ナツノタムラソウ					
497			キバナアキギリ					
498		サギゴケ科	サギゴケ					
499		ハエドクソウ科	ミゾホオズキ					
500			ハエドクソウ					
501		ハマウツボ科	ヤマウツボ				EN	
502			ハンカイシオガマ				VU	
503		キツネノマゴ科	キツネノマゴ					
504			ハグロソウ					
505		ハナイカダ科	ハナイカダ					
506		モチノキ科	イヌツゲ					
507			モチノキ					
508			アオハダ					
509			ソヨゴ					
510		キキョウ科	イワシャジン				VU	
511			ツリガネニンジン					
512			ヤマホタルブクロ					

表 2.2.8-1(11)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
513	被子植物	キキョウ科	ホタルブクロ					
514	真正双子葉類		ツルニンジン					
515			タニギキョウ					
516		キク科	ノブキ					
517			モミジハグマ					
518			オクモミジハグマ					
519			キッコウハグマ					
520			ブタクサ					
521			オオブタクサ					
522			ヤマハハコ					
523			カワラヨモギ					
524			ヨモギ					
525			オトコヨモギ					
526			オオヨモギ					
527			シロヨメナ					
528			タテヤマギク			NT		
529			ユウガギク					
530			ノコンギク					
531			シラヤマギク					
532			ハコネギク					
533			センダングサ					
534			ヤブタバコ					
535			コヤブタバコ					
536			ガンクビソウ					
537			リュウノウギク					
538			ホソエノアザミ					
539			ヒメムカシヨモギ					
540			ベニバナボロギク					
541			ヤクシソウ					
542			タカサブロウ					
543			ヒメジョオン					
544			ヒヨドリバナ					
545			ハキダメギク					
546			キツネアザミ					
547			ニガナ					
548			オオジシバリ					
549			イワニガナ					
550			フクオウソウ					
551			ムラサキニガナ					
552			テバコモミジガサ					
553			ヤマタイミンガサ					
554			カシワバハグマ					
555			コウヤボウキ					
556			フキ					
557			ハハコグサ					
558			アキノノゲシ					
559			ヤマニガナ					
560			ヤハズヒゴタイ					
561			ノボロギク					
562			メナモミ					
563			アキノキリンソウ					
564			ヤブレガサ					

表 2.2.8-1(12)　既存資料による植物リスト

No.	分類群	科和名	種和名	指定・選定状況				
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
565	被子植物	キク科	シロバナタンポポ					
566	真正双子葉類		セイヨウタンポポ					
567			カントウタンポポ					
568			オナモミ			VU	VU	
569			オニタビラコ					
570		レンプクソウ科	ニワトコ					
571			コバノガマズミ					
572			オオカメノキ					
573			オトコヨウゾメ					
574			ヤブデマリ					
575		スイカズラ科	ツクバネウツギ					
576			スイカズラ					
577			キンレイカ					
578			オトコエシ					
579			ツルカノコソウ				VU	
580		ウコギ科	ウド					
581			タラノキ					
582			コシアブラ					
583			ヤマウコギ					
584			タカノツメ					
585			キヅタ					
586			チドメグサ					
587			ハリギリ					
588			トチバニンジン					
589		セリ科	ノダケ					
590			シラネセンキュウ					
591			シシウド					
592			ミツバ					
593			ヤブジラミ					
合計	6 分類	133 科	593 種	0 種	0 種	11 種	56 種	0 種

注 1）種名及び配列は「日本維管束植物目録」（平成 24 年．邑田仁監修）に従った。
注 2）「山梨県の植物分布」（平成 19 年．小林岳編）において，旧富沢町の欄に記載されている植物を抽出した。
注 3）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）
Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）
Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）
　EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧
Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）
　CR:絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足
Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

2) 植　生

「第６回～第７回自然環境保全基礎調査　植生調査」（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査Web-GIS）による調査地域の植生は，図2.2.8-1に示すとおりである。

スギ・ヒノキ・サワラ植林の面積が最も多く，対象事業実施区域においても最も多くの面積を占める。その他の植生では，クリーコナラ群集やクヌギーコナラ群集，アカマツ植林がややまとまった面積でみられ，シキミーモミ群集やイロハモミジーケヤキ群集等が点在する。河川周辺にはツルヨシ群集が連続性をもって分布する。

3) 植生自然度

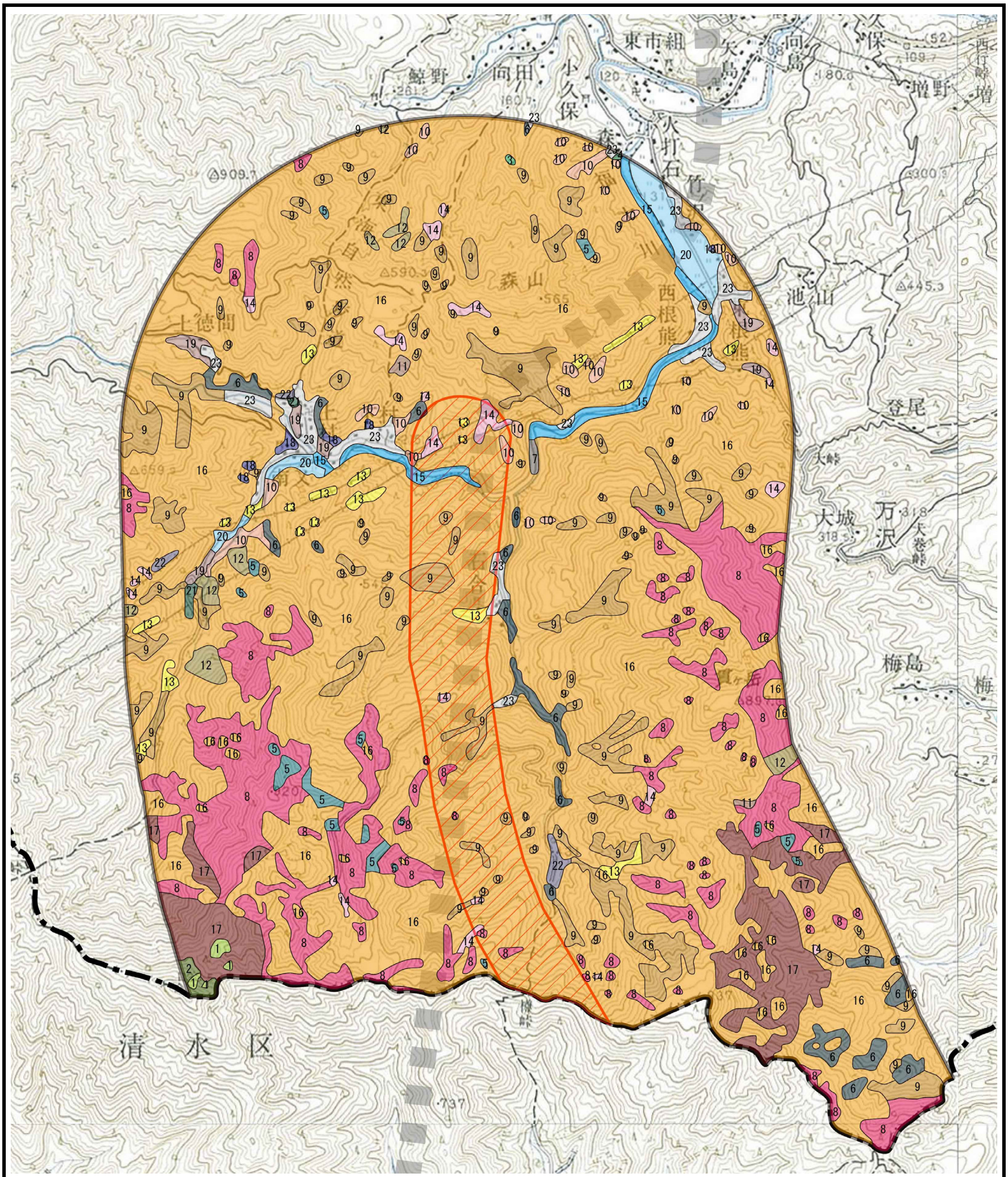
「第６回～第７回自然環境保全基礎調査　植生調査」（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査Web-GIS）による植生図を基に，「（お知らせ）1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」（平成28年．環境省自然環境局生物多様性センター）に準じて設定した植生自然度は，表2.2.8-2及び図2.2.8-2に示すとおりである。

植生自然度6の植林地の面積が最も多く，対象事業実施区域においても最も多くの面積を占める。植生自然度7の二次林もまとまった面積でみられ，植生自然度9の自然林や10の自然草原は，主に河川沿いに連続性をもって分布する。

表2.2.8-2　植生自然度の区分

植　生 自然度	区分内容	該当する植生
10	自然草原	ツルヨシ群集
9	自然林	コカンスゲーツガ群集，シラカシ群集，イノデータブノキ群集，シキミーモミ群集，イロハモミジーケヤキ群集，ヤナギ高木群落
7	二次林	フクオウソウーミズナラ群集，クリーコナラ群集，クヌギーコナラ群集，オニシバリーコナラ群集，アカシデーイヌシデ群落，アカマツ群落
6	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林，アカマツ植林
5	二次草原 （背の高い草原）	ススキ群団
4	二次草原 （背の高い草原）	伐採跡地群落，路傍・空地雑草群落
3	外来種植林 農耕地(樹園地)	竹林，茶畑，残存・植栽樹群をもった公園・墓地等
2	外来種草原 農耕地(水田・畑)	畑雑草群落，水田雑草群落，緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地
－	自然裸地	自然裸地

注1）植生自然度8に該当する植生は分布していなかった。
注2）自然裸地には植生自然度が区分されていなかった。



【凡　例】

: 対象事業実施区域（ルートゾーン幅約 500m）
: 調査地域
: 県境
: 中部横断自動車道（事業中）

Ⅰ.ブナクラス域自然植生
1 コカンスゲーツガ群集

Ⅱ.ブナクラス域代償植生
2 フクオウソウーミズナラ群集

Ⅲ.ヤブツバキクラス域自然植生
3 シラカシ群集
4 イノデータブノキ群集
5 シキミーモミ群集
6 イロハモミジーケヤキ群集
7 ヤナギ高木群落

Ⅳ.ヤブツバキクラス域代償植生
8 クリーコナラ群集
9 クヌギーコナラ群集
10 オニシバリーコナラ群集
11 アカシデーイヌシデ群落
12 アカマツ群落
13 ススキ群団
14 伐採跡地群落

Ⅴ.湿原・河川・池沼植生
15 ツルヨシ群集

Ⅵ.植林地・耕作地
16 スギ・ヒノキ・サワラ植林
17 アカマツ植林
18 竹林
19 畑雑草群落
20 水田雑草群落
21 茶畑
22 路傍・空地雑草群落

Ⅶ.その他
23 市街地・公園・墓地等

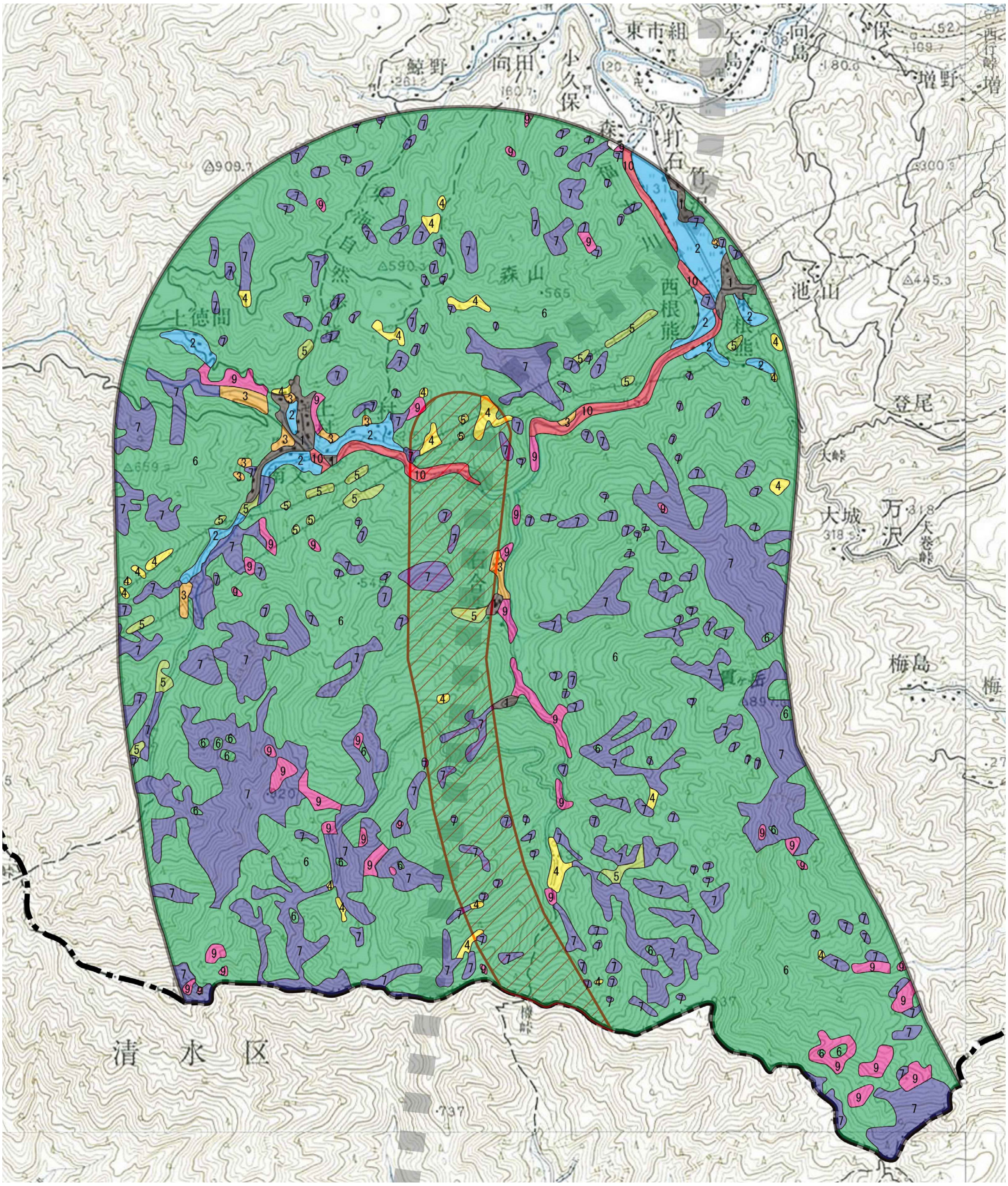
N

0　500m　1km　2km

1 : 40,000

図 2.2.8-1　植生図

「第 6 回～第 7 回自然環境保全基礎調査　植生調査」(環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS) を基に作成



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）

10	自然草原
9	自然林
7	二次林
6	植林地
5	二次草原（背の高い草原）
4	二次草原（背の低い草原）
3	外来種植林・農耕地（樹園地）
2	外来種草原・農耕地（水田・畑）
1	市街地等
	自然裸地

注）植生自然度 8に該当する植生は分布していなかった

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.8-2　植生自然度図

「第６回～第７回自然環境保全基礎調査　植生調査」（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）を基に作成

4) 天然記念物（植物）

「山梨の文化財リスト（天然記念物)」(山梨県ウェブサイト),「南部町の文化財」（平成 9 年.南部町教育委員会）及び「富沢町の文化財」（平成元年.富沢町教育委員会）によると，調査地域には 1 件の天然記念物（植物）が存在する。天然記念物（植物）の概要は表 2.2.8-3 に，位置は図 2.2.8-3 に示すとおりである。

表 2.2.8-3　天然記念物（植物）の概要

区分	名　称	所在地	指定年月日
町指定	福士根熊池大神社のイチョウ	南部町福士東根熊	昭和 51 年 6 月 10 日

5) 自然記念物（植物）

「山梨県自然環境保全条例に基づく自然環境保全地区・自然記念物位置図等について」(山梨県ウェブサイト）によると，調査地域には 2 件の自然記念物（植物）が存在する。自然記念物（植物）の概要は表 2.2.8-4 に，位置は図 2.2.8-4 に示すとおりである。

表 2.2.8-4　自然記念物（植物）の概要

名　称	場　所	自然記念物の定義
西市森の暖帯林	南部町福士	住民に親しまれているもの，由緒のあるもの又は学術的価値のあるもののうち，将来にわたって保存する必要があるもの
石合のカタヒバ	南部町福士	

6) 特定植物群落

「第 2 回～第 5 回自然環境保全基礎調査　特定植物群落」(環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）によると，調査地域には 3 件の特定植物群落が存在する。特定植物群落の概要は表 2.2.8-5 に，位置は図 2.2.8-5 に示すとおりである。

表 2.2.8-5　特定植物群落の概要

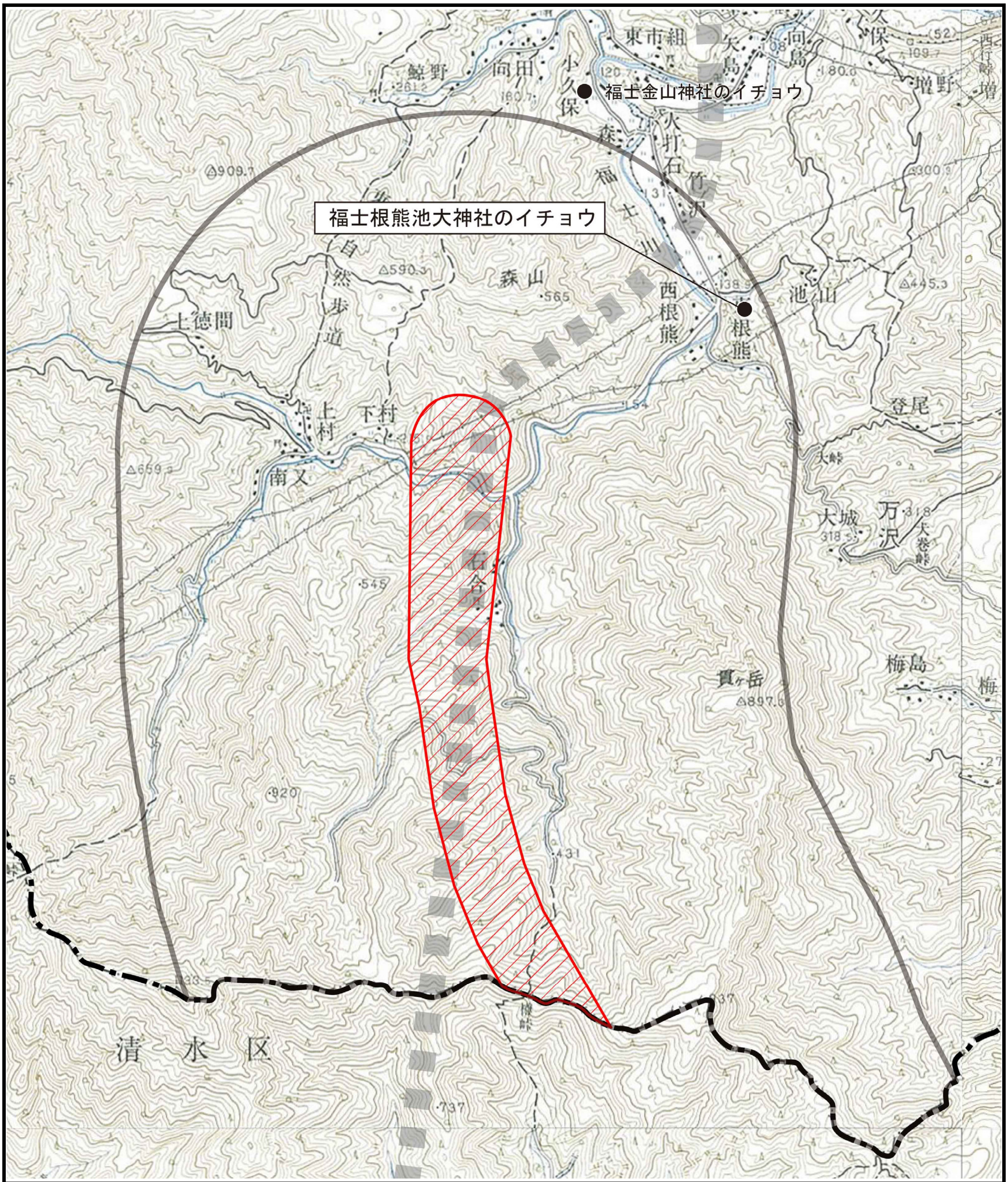
名　称	選定基準
県南部の暖地性シダ群落	比較的普通に見られるものであっても，南限，北限，隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
県南部のキバナノショウキラン・キヨスミウツボ	国内若干地域に分布するが，極めて稀な植物群落または個体群
西市森の暖帯林	原生林もしくはそれに近い自然林

7) 巨樹・巨木林

「第 4 回，第 6 回自然環境保全基礎調査　巨樹・巨木林」(環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）によると，調査地域には 1 件の巨樹・巨木林が存在する。巨樹・巨木林の概要は表 2.2.8-6 に，位置は図 2.2.8-6 に示すとおりである。

表 2.2.8-6　巨樹・巨木林の概要

名　称	樹　種	幹周（cm）	樹高（m）
福士根熊池大神社	イチョウ	600	33



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）

：調査地域

：県境

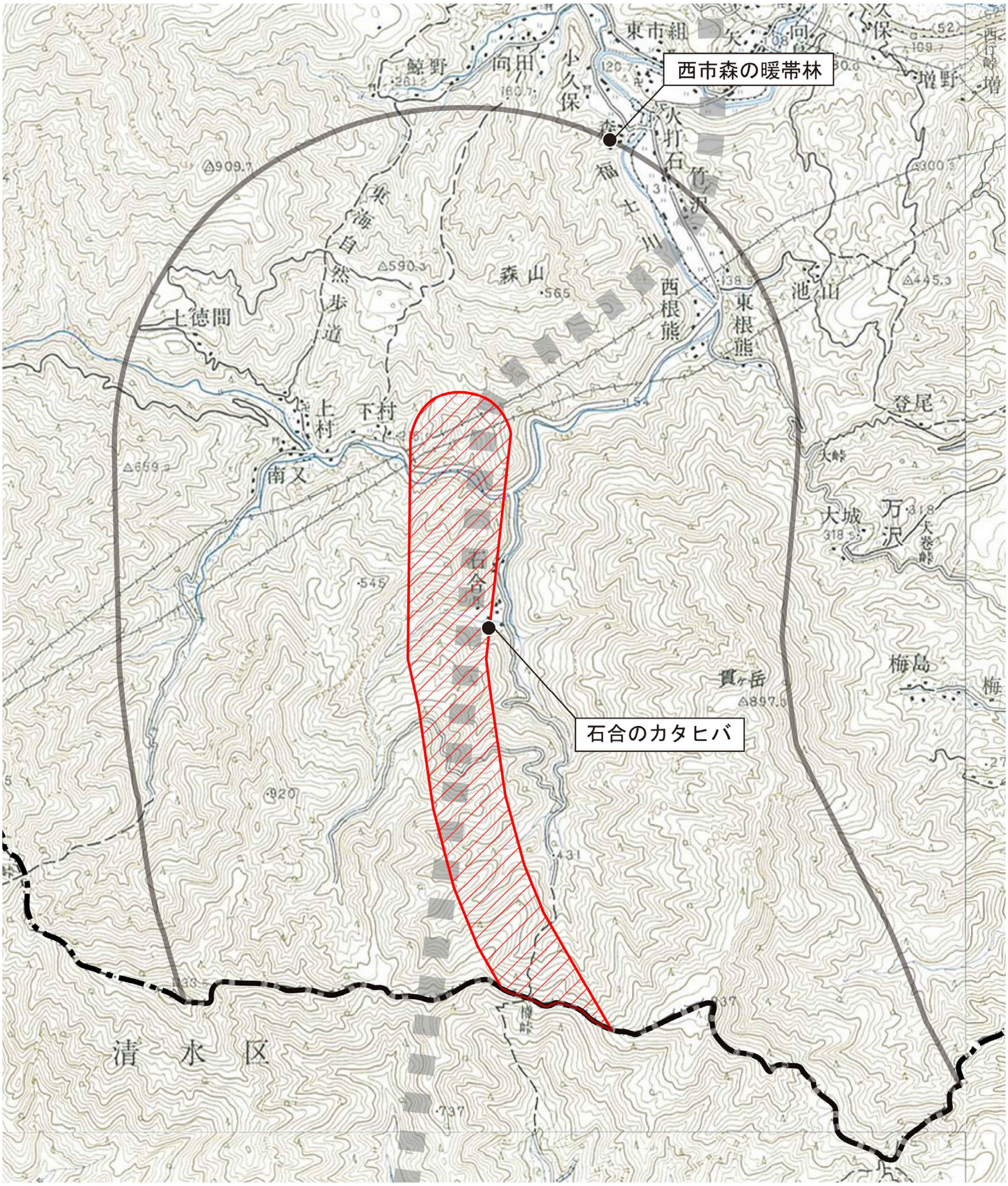
：中部横断自動車道（事業中）

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.8-3　天然記念物（植物）



【凡　例】

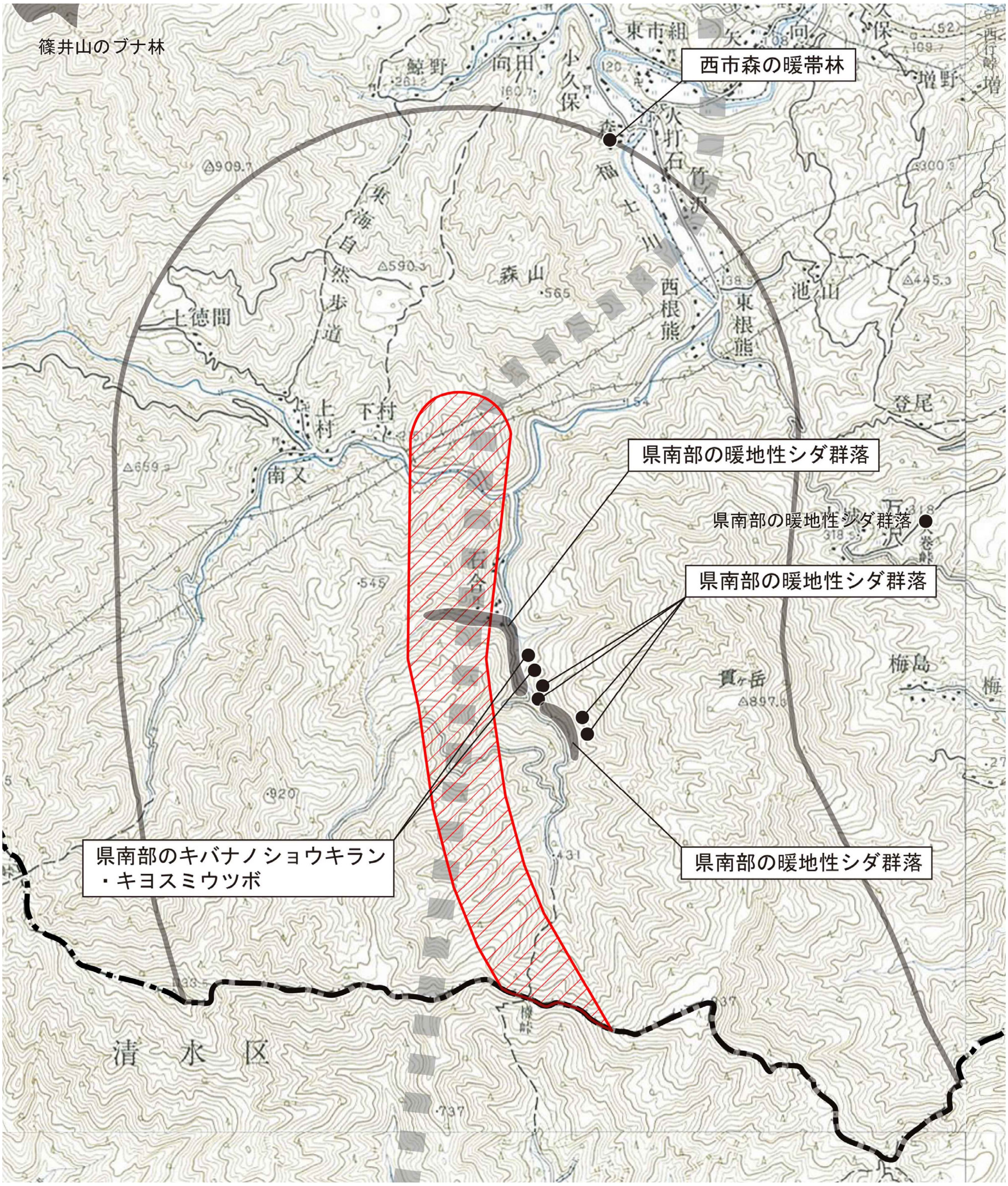
：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.8-4　自然記念物（植物）



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）

：調査地域

：県境

：中部横断自動車道（事業中）

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.8-5　特定植物群落

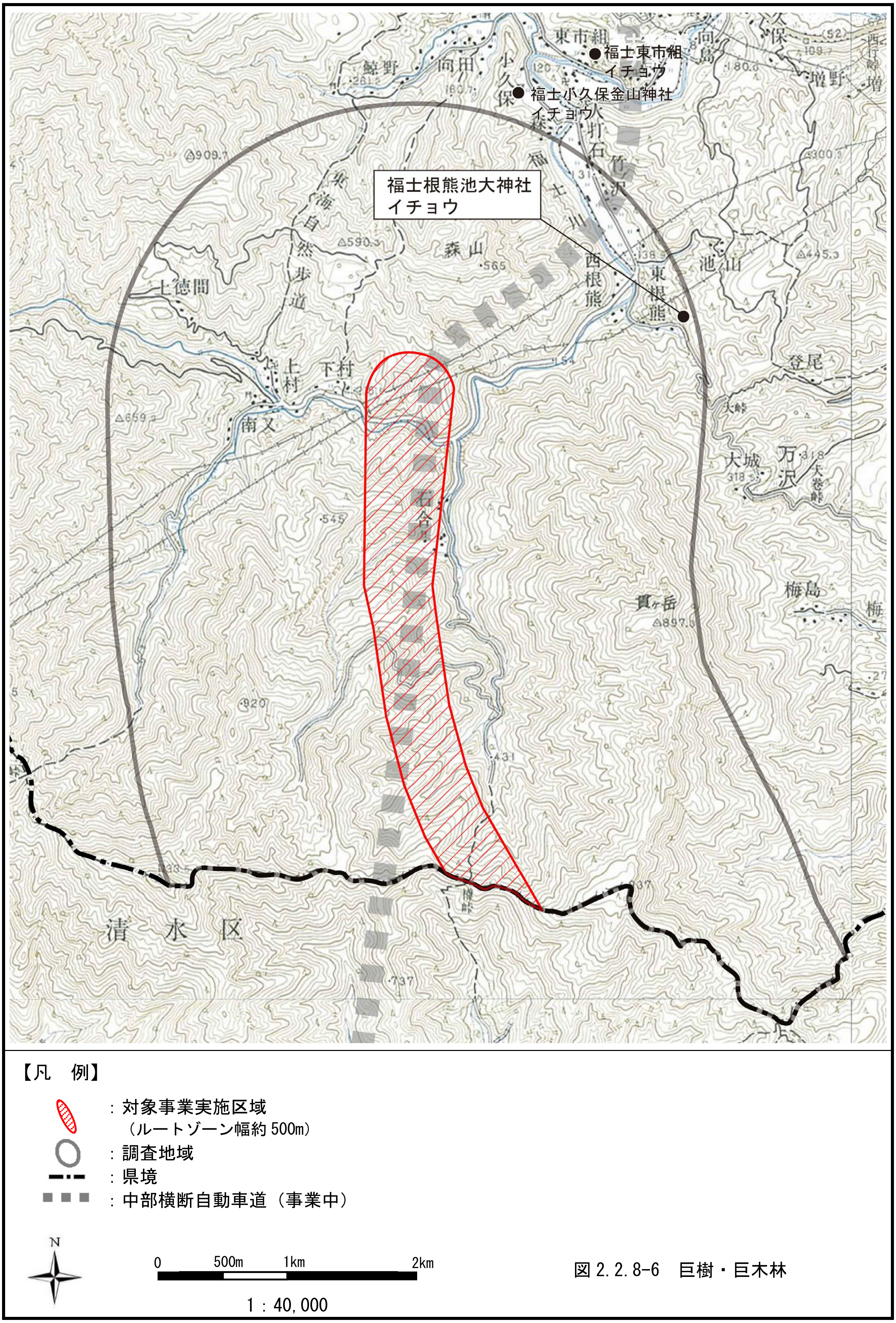

福士東市組
イチョウ
福士小久保金山神社
イチョウ
福士根熊池大神社
イチョウ
清　水　区
【凡　例】
：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）
N
0
500m
1km
2km
1：40,000

図 2.2.8-6　巨樹・巨木林

(2) 動物の状況

動物種リストの作成にあたっては，表 2.2.8-7 に示す既存資料を用いた。

また，山地に送電線を建設するという事業特性から希少猛禽類に配慮するため，「猛禽類保護の進め方（改訂版）－特にイヌワシ，クマタカ，オオタカについて－」（平成 24 年．環境省自然環境局野生生物課）に準じた予備調査を実施し，希少猛禽類の生息確認及びその繁殖可能性の推定を行った。予備調査の調査内容は表 2.2.8-8 に示すとおりである。

表 2.2.8-7　動物種リスト作成に用いた既存資料

No.	資料名	著者名	抽出範囲	哺乳類	鳥類	爬虫類 両生類	昆虫類	魚類
①	第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物	環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS	2 次メッシュ No.523863	◎	◎	◎	◎	◎
②	山梨県の野生動物	昭和 55 年．山梨県編	(旧)富沢町 魚類は福士川	◎	△	◎	△	◎
③	希少種を主とする山梨県の野生鳥獣生息調査	平成 9 年．山梨県編	(旧)富沢町	◎	◎	◎	－	－
④	富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物 －1973－	昭和 48 年．富沢町誌編さん室編	全て	◎	◎	◎	◎	◎
⑤	やまなしの野鳥　2011	平成 23 年．日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会編	メッシュ No.63・64・65	－	◎	－	－	－
⑥	山梨県の爬虫類・両生類と魚類	平成 18 年．山梨淡水生物調査会編	調査地域 魚類は福士川，石合川	－	－	◎	－	◎
⑦	山梨の昆虫　No.1～56	昭和 51 年～平成 28 年．甲州昆虫同好会	調査地域	－	－	－	◎	－

注）◎：動物種リストの作成にあたって引用した資料を示す。
　　△：地域特性の把握の参考にしたが，動物種リストの作成には引用しなかった資料を示す。
　　－：当該分類群の情報が掲載されていない資料を示す。

表 2.2.8-8　予備調査の調査内容

項　目	内　容
調査目的	対象事業実施区域周辺における希少猛禽類のおおまかな生息状況を把握し，繁殖の可能性を推定することを目的とした。
調査方法	8～10 倍程度の双眼鏡と 20～60 倍程度の望遠鏡を併用しながら観察を行い，飛翔経路，指標行動，個体の特徴等を記録し，可能な限り写真撮影を行った。
調査地域	対象事業実施区域周辺 5km 程度の範囲
調査地点	3 地点
調査期間	第 1 回：平成 29 年 11 月 30 日～平成 29 年 12 月 1 日 第 2 回：平成 30 年 2 月 8～9 日 第 3 回：平成 30 年 5 月 8～9 日 第 4 回：平成 30 年 7 月 5～6 日

1）哺乳類

既存資料による調査地域の哺乳類リストは，表 2.2.8-9 に示すとおりである。7 目 14 科 21 種の哺乳類が確認されており，本州の山地に生息する多くの哺乳類が確認されている。

表 2.2.8-9　既存資料による哺乳類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
1	モグラ目	トガリネズミ科	カワネズミ				N		④
2		モグラ科	*Mogera* 属						④
3	コウモリ目	ヒナコウモリ科	アブラコウモリ						②
4		―	コウモリ目						④
5	サル目	オナガザル科	ニホンザル						①②③④
6	ネコ目	イヌ科	タヌキ						①②③④
7			キツネ						①②③④
8		イタチ科	テン						②③
9			イタチ				DD		①②③④
10			オコジョ			NT	DD		③
11			アナグマ						①③④
12		クマ科	ツキノワグマ				N		①②④
13		ジャコウネコ科	ハクビシン						①②③④
14	ウシ目	イノシシ科	イノシシ						①②③④
15		シカ科	ニホンジカ						①②③④
16		ウシ科	ニホンカモシカ	特天					①②③④
17	ネズミ目	リス科	ニホンリス				N		①②③④
18			ホンドモモンガ				NT		④
19			ムササビ				N		①②③④
20		ネズミ科	ハツカネズミ						④
21	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ				N		①②③④
合計	7 目	14 科	21 種	1 種	0 種	1 種	8 種	0 種	

注 1）種名及び配列は「日本野生鳥獣目録」（平成 14 年．環境省自然環境局野生生物課）に従った。
注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。
　Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）
　　特天：特別天然記念物
　Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）
　Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）
　　NT：準絶滅危惧
　Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）
　　NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，N：要注目種
　Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）
注 3）資料の略号は以下のとおりである。
　①：第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）
　②：山梨県の野生動物（昭和 55 年．山梨県編）
　③：希少種を主とする山梨県の野生鳥獣生息調査（平成 9 年．山梨県編）
　④：富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物－1973－（昭和 48 年．富沢町誌編さん室編）

2) 鳥　類

既存資料による調査地域の鳥類リストは，表 2.2.8-10(1)～(2)に示すとおりである。15 目 39 科 95 種の鳥類が確認されており，山地に生息するヤマドリやタカ類，水辺に生息するサギ類やシギ類，夏鳥として渡来するオオルリやカッコウ類，冬鳥として渡来するアトリやカシラダカ等が確認されている。

また，予備調査による希少猛禽類の確認状況は，表 2.2.8-11 に示すとおりである。クマタカ及びハヤブサの繁殖可能性が高いことが確認された。なお，詳細な調査結果については，別冊の非公開資料としてとりまとめた。

表 2.2.8-10(1)　既存資料による鳥類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
1	キジ目	キジ科	ウズラ			VU	NT		④
2			ヤマドリ						①④
3			キジ						①④⑤
4	ハト目	ハト科	キジバト						①⑤
5	カツオドリ目	ウ科	カワウ						⑤
6	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ			VU	EN		⑤
7			ゴイサギ						④
8			アオサギ						⑤
9			ダイサギ						⑤
10			チュウサギ			NT			⑤
11	ツル目	クイナ科	クイナ				DD		④
12	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス						①④⑤
13			ツツドリ						①⑤
14			カッコウ						①⑤
15	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			NT	VU		①④⑤
16	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ						⑤
17			コチドリ						⑤
18			シロチドリ			VU	VU		①⑤
19		シギ科	アオアシシギ						①⑤
20			イソシギ						⑤
21			ハマシギ			NT			⑤
22		カモメ科	ウミネコ						⑤
23	タカ目	タカ科	ハチクマ			NT	VU		③
24			トビ						①④⑤
25			ハイタカ			NT	VU		①
26			オオタカ		国内	NT	NT		③⑤
27			サシバ			VU	NT		⑤
28			ノスリ						③
29			クマタカ		国内	EN	EN		③⑤
30	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク				EN		①④
31			フクロウ				NT		④⑤
32			アオバズク				NT		①⑤
33	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン				EN		①④
34			カワセミ						④⑤
35			ヤマセミ				NT		①⑤
36	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ						①⑤
37			オオアカゲラ				DD		①
38			アカゲラ						①⑤
39			アオゲラ						⑤
40	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ						⑤
41	スズメ目	モズ科	モズ						①④⑤
42		カラス科	カケス						①④⑤
43			オナガ						④⑤

表 2.2.8-10(2)　既存資料による鳥類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				I	II	III	IV	V	
44	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス						①⑤
45			ハシブトガラス						①⑤
46		キクイタダキ科	キクイタダキ						①⑤
47		シジュウカラ科	コガラ						①⑤
48			ヤマガラ						①④⑤
49			ヒガラ						①⑤
50			シジュウカラ						①④⑤
51		ヒバリ科	ヒバリ						④
52		ツバメ科	ツバメ						①④⑤
53			イワツバメ						①
54		ヒヨドリ科	ヒヨドリ						①④⑤
55		ウグイス科	ウグイス						①④⑤
56			ヤブサメ						①
57		エナガ科	エナガ						①⑤
58		ムシクイ科	メボソムシクイ						①
59			エゾムシクイ						①④
60			センダイムシクイ						①⑤
61		メジロ科	メジロ						①④⑤
62		ヨシキリ科	オオヨシキリ						⑤
63		セッカ科	セッカ						⑤
64		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ						①
65		ミソサザイ科	ミソサザイ						①④⑤
66		ムクドリ科	ムクドリ						①⑤
67		カワガラス科	カワガラス						①④⑤
68		ヒタキ科	マミジロ				NT		①
69			トラツグミ				NT		①
70			クロツグミ						①⑤
71			アカハラ						①
72			ツグミ						④⑤
73			コマドリ						①
74			コルリ						①
75			ルリビタキ						①
76			ジョウビタキ						①⑤
77			キビタキ						①⑤
78			オオルリ						①⑤
79		イワヒバリ科	カヤクグリ						①
80		スズメ科	スズメ						①④⑤
81		セキレイ科	キセキレイ						①⑤
82			ハクセキレイ						④⑤
83			セグロセキレイ						①
84			ビンズイ						①⑤
85		アトリ科	アトリ						①
86			カワラヒワ						①④⑤
87			ハギマシコ						①
88			ベニマシコ						①
89			ウソ						①⑤
90			イカル						①⑤
91		ホオジロ科	ホオジロ						①④⑤
92			カシラダカ						⑤
93			アオジ						⑤
94	キジ目	キジ科	コジュケイ						①④⑤
95	スズメ目	チメドリ科	ガビチョウ						⑤
合計	15 目	39 科	95 種	0 種	2 種	11 種	18 種	0 種	

注 1）種名及び配列は「日本鳥類目録　改訂第 7 版」（平成 24 年．日本鳥学会）に従った。なお，№94 コジュケイ及び№95 ガビチョウは外来種である。

注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）

Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）

国内：国内希少野生動植物種

Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）

EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧

Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）

EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

注 3）資料の略号は以下のとおりである。

①：第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）

③：希少種を主とする山梨県の野生鳥獣生息調査（平成 9 年．山梨県編）

④：富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物－1973－（昭和 48 年．富沢町誌編さん室編）

⑤：やまなしの野鳥　2011（平成 23 年．日本野鳥の会甲府支部・やまなし野鳥の会編）

表 2.2.8-11　予備調査による希少猛禽類の確認状況

種和名	確認回数					指定・選定状況					繁殖の可能性
	11-12 月	2 月	5 月	7 月	合計	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
ミサゴ		1			1			NT	DD		×
ハイタカ	6	3	2		11			NT	VU		△
オオタカ	1	1			2			NT	NT		×
クマタカ	7	19	8	3	37		国内	EN	EN		◎
ハヤブサ	2		5	1	8		国内	VU	VU		◎

注 1）希少猛禽類は，各種法令及び文献により指定・選定されている猛禽類とした。

注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）

Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）

国内：国内希少野生動植物種

Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）

EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧

Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）

EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

注 3）繁殖の可能性

◎：繁殖の可能性が高い，△：繁殖の可能性を否定できない，×：繁殖の可能性が低い

3）爬虫類

既存資料による調査地域の爬虫類リストは，表 2.2.8-12 に示すとおりである。1 目 4 科 8 種の爬虫類が確認されており，いずれも本州に普通に生息する種であった。

表 2.2.8-12　既存資料による爬虫類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
1	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ						②
2		カナヘビ科	ニホンカナヘビ						②④
3		ナミヘビ科	タカチホヘビ				DD		②④
4			ジムグリ						①②④⑥
5			アオダイショウ						①②④
6			シマヘビ				VU		④⑥
7			ヤマカガシ						①②④⑥
8		クサリヘビ科	ニホンマムシ						②④
合計	1 目	4 科	8 種	0 種	0 種	0 種	2 種	0 種	

注 1）種名及び配列は「日本産爬虫両生類標準和名リスト（2019 年 1 月 25 日版）」（日本爬虫両棲類学会ウェブサイト）に従った。

注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）

Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）

Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）

NT：準絶滅危惧

Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）

VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧

Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

注 3）資料の略号は以下のとおりである。

①：第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）

②：山梨県の野生動物（昭和 55 年．山梨県編）

③：希少種を主とする山梨県の野生鳥獣生息調査（平成 9 年．山梨県編）

④：富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物－1973－（昭和 48 年．富沢町誌編さん室編）

⑥：山梨県の爬虫類・両生類と魚類（平成 18 年．山梨淡水生物調査会編）

4）両生類

既存資料による調査地域の両生類リストは，表 2.2.8-13 に示すとおりである。2 目 6 科 11 種の両生類が確認されており，サンショウウオ類を代表に，山地性の両生類が特徴的に確認されている。

表 2.2.8-13　既存資料による両生類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
1	有尾目	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ			NT	NT		①②
2			ハコネサンショウウオ						④
3		イモリ科	アカハライモリ			NT	VU		①④
4	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル						④
5		アマガエル科	ニホンアマガエル						④⑥
6		アカガエル科	ヤマアカガエル						①④⑥
7			ウシガエル						①④⑥
8			ツチガエル						④
9			トノサマガエル			NT	NT		①④⑥
10		アオガエル科	モリアオガエル						①②③④⑥
11			カジカガエル						①④⑥
合計	2 目	6 科	11 種	0 種	0 種	3 種	3 種	0 種	

注 1）種名及び配列は「日本産爬虫両生類標準和名リスト（2019 年 1 月 25 日版）」（日本爬虫両棲類学会ウェブサイト）に従った。

注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）

Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）

Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）

NT：準絶滅危惧

Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）

VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧

Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

注 3）資料の略号は以下のとおりである。

①：第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）

②：山梨県の野生動物（昭和 55 年．山梨県編）

③：希少種を主とする山梨県の野生鳥獣生息調査（平成 9 年．山梨県編）

④：富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物－1973－（昭和 48 年．富沢町誌編さん室編）

⑥：山梨県の爬虫類・両生類と魚類（平成 18 年．山梨淡水生物調査会編）

5) 昆虫類

既存資料による調査地域の昆虫類リストは，表 2.2.8-14(1)～(4)に示すとおりである。10目51科206種の昆虫類が確認されており,特筆すべきはチョウ類の種数が多いことであった。

表 2.2.8-14(1) 既存資料による昆虫類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
1	カゲロウ目	ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ						④
2	トンボ目	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ						⑦
3		イトトンボ科	ホソミイトトンボ						①
4			イトトンボ科						④
5		カワトンボ科	ハグロトンボ						④
6			ミヤマカワトンボ						⑦
7			アオハダトンボ			NT	NT		④
8		ムカシトンボ科	ムカシトンボ				VU		⑦
9		ヤンマ科	オオギンヤンマ						⑦
10			ギンヤンマ						⑦
11			コシボソヤンマ						④
12			カトリヤンマ						①⑦
13			ミルンヤンマ						①⑦
14		サナエトンボ科	クロサナエ						⑦
15		オニヤンマ科	オニヤンマ						④⑦
16		トンボ科	ショウジョウトンボ						④
17			シオカラトンボ						④
18			シオヤトンボ						④
19			オオシオカラトンボ						④
20			ウスバキトンボ						⑦
21			コシアキトンボ						④
22			ナツアカネ						④
23			マユタテアカネ						⑦
24			アキアカネ						④
25			ノシメトンボ						⑦
26			ミヤマアカネ						⑦
27	ゴキブリ目	ゴキブリ科	ゴキブリ科						④
28	カマキリ目	カマキリ科	ハラビロカマキリ						④⑦
29			コカマキリ						①④
30			オオカマキリ						①④
31	ハサミムシ目	―	ハサミムシ目						①
32	バッタ目	カマドウマ科	カマドウマ						④
33		クツワムシ科	クツワムシ				NT		④⑦
34		ツユムシ科	セスジツユムシ						④
35			ツユムシ						④⑦
36			ヘリグロツユムシ						⑦
37		キリギリス科	ヒガシキリギリス						④
38			*Hexacentrus* 属						④
39		ケラ科	ケラ						④
40		マツムシ科	スズムシ						④
41			アオマツムシ						⑦
42			マツムシ						④
43		コオロギ科	ハラオカメコオロギ						④
44			ミツカドコオロギ						④
45			エンマコオロギ						④
46		カネタタキ科	カネタタキ						④
47		バッタ科	ショウリョウバッタ						④
48			クルマバッタ						④

表 2.2.8-14(2)　既存資料による昆虫類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
49	バッタ目	バッタ科	トノサマバッタ						④⑦
50		イナゴ科	ツチイナゴ						④
51			イナゴ科						④
52	カメムシ目	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ						⑦
53		セミ科	エゾゼミ						④
54			クマゼミ						④⑦
55			ヒメハルゼミ						④
56			アブラゼミ						④⑦
57			ミンミンゼミ						④
58			ツクツクボウシ						④⑦
59			ニイニイゼミ						④
60			ヒグラシ						④
61			ハルゼミ						④
62		アメンボ科	アメンボ						①
63			シマアメンボ						⑦
64		ミズムシ科	ミズムシ科						①
65		コオイムシ科	コオイムシ			NT	NT		①④
66			タガメ			VU	CR		①④
67		タイコウチ科	タイコウチ						①④
68			ミズカマキリ						①④
69	チョウ目	セセリチョウ科	アオバセセリ本土亜種						①④⑦
70			ダイミョウセセリ						①⑦
71			ホソバセセリ						①
72			ヒメキマダラセセリ						①④⑦
73			イチモンジセセリ						①④⑦
74			ミヤマチャバネセセリ						⑦
75			チャバネセセリ						⑦
76			オオチャバネセセリ				NT		①⑦
77			キマダラセセリ						①④
78			チャマダラセセリ			EN	CR		①
79		シジミチョウ科	ウラゴマダラシジミ						①④⑦
80			ムラサキシジミ						④⑦
81			コツバメ						①④
82			ルリシジミ						④⑦
83			スギタニルリシジミ本州亜種						①④
84			キリシマミドリシジミ本州以南亜種				N		⑦
85			アイノミドリシジミ						①④
86			ヒサマツミドリシジミ				N		①④
87			ウラギンシジミ						①④⑦
88			ツバメシジミ						①④⑦
89			ウラナミシジミ						①④⑦
90			ベニシジミ						①④⑦
91			ミヤマシジミ			EN	EN		①
92			トラフシジミ						①④
93			フジミドリシジミ						①④⑦
94			ゴイシシジミ						①④
95			クロツバメシジミ東日本亜種			NT	VU		⑦
96			ウラキンシジミ						④
97			ヤマトシジミ本土亜種						④⑦
98		タテハチョウ科	コムラサキ						①
99			サカハチチョウ						⑦
100			ミドリヒョウモン						①⑦
101			ツマグロヒョウモン						①④⑦

表 2.2.8-14(3)　既存資料による昆虫類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
102	チョウ目	タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン			VU	NT		⑦
103			メスグロヒョウモン						④⑦
104			スミナガシ本土亜種						①④
105			アカボシゴマダラ						⑦
106			ゴマダラチョウ本土亜種						①④
107			クジャクチョウ						④⑦
108			ルリタテハ本土亜種						④⑦
109			ツマジロウラジャノメ本州亜種						①④
110			クロヒカゲ本土亜種						①④⑦
111			ヒカゲチョウ						①④⑦
112			テングチョウ日本本土亜種						④⑦
113			イチモンジチョウ						①④⑦
114			アサマイチモンジ						①④⑦
115			ウスイロコノマチョウ						①④
116			クロコノマチョウ						①⑦
117			ジャノメチョウ						①④
118			コジャノメ						①④⑦
119			ヒメジャノメ						①④⑦
120			サトキマダラヒカゲ						④
121			ヤマキマダラヒカゲ本土亜種						④
122			クモガタヒョウモン						④⑦
123			ミスジチョウ						⑦
124			コミスジ本州以南亜種						①④⑦
125			オオヒカゲ				VU		①④
126			ヒオドシチョウ						①④
127			アサギマダラ						④⑦
128			シータテハ						④
129			キタテハ						①④⑦
130			オオムラサキ			NT	N		①④
131			ヒメアカタテハ						①④⑦
132			アカタテハ						①⑦
133			ヒメウラナミジャノメ						①④⑦
134			ヒメキマダラヒカゲ						①④
135		アゲハチョウ科	ジャコウアゲハ本土亜種						①④⑦
136			アオスジアゲハ						①⑦
137			ギフチョウ			VU	CR		①④⑦
138			カラスアゲハ本土亜種						①④⑦
139			モンキアゲハ						④⑦
140			ミヤマカラスアゲハ						⑦
141			キアゲハ						④⑦
142			オナガアゲハ						①④⑦
143			ナガサキアゲハ						⑦
144			クロアゲハ本土亜種						④⑦
145			アゲハ						①⑦
146			ウスバシロチョウ						①④
147		シロチョウ科	ツマキチョウ本土亜種						④
148			モンキチョウ						④⑦
149			ツマグロキチョウ			EN	CR		①④⑦
150			キタキチョウ						④⑦
151			エゾスジグロシロチョウ						⑦
152			スジグロシロチョウ						①④⑦
153			ヤマトスジグロシロチョウ本州中・南部亜種						⑦
154			モンシロチョウ						④⑦

表 2.2.8-14(4)　既存資料による昆虫類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
155	チョウ目	イカリモンガ科	イカリモンガ						⑦
156		ヤママユガ科	ヤママユ本土亜種						⑦
157		スズメガ科	オオスカシバ						⑦
158	コウチュウ目	ハンミョウ科	ナミハンミョウ						④⑦
159		ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ			VU	EN		④
160		ミズスマシ科	ミズスマシ			VU	NT		④
161		ガムシ科	ガムシ			NT	VU		④
162		センチコガネ科	オオセンチコガネ						⑦
163			センチコガネ						⑦
164		クワガタムシ科	ミヤマクワガタ						④
165			コルリクワガタ						④
166			ノコギリクワガタ						④
167			クワガタムシ科						④
168		コガネムシ科	マグソコガネ						④
169			コガネムシ						④
170			ヒゲコガネ						④
171			カナブン						④
172			アオカナブン						④
173			カブトムシ						④
174			コガネムシ科						④
175		タマムシ科	ウバタマムシ						④
176			タマムシ						④
177			コウゾチビタマムシ						⑦
178			ウメチビタマムシ						⑦
179		ツツキノコムシ科	フタオビツツキノコムシ						④
180		カミキリムシ科	ビロウドカミキリ						⑦
181			クワカミキリ						④
182			シロスジカミキリ						④
183			ヤツボシハナカミキリ						⑦
184			クロホソコバネカミキリ						④
185			ミヤマカミキリ						④
186			ヘリグロリンゴカミキリ						⑦
187			ラミーカミキリ						⑦
188			フジヒメハナカミキリ						④
189			オオヒメハナカミキリ						④
190			ベニカミキリ						⑦
191			ホソトラカミキリ						⑦
192			モモグロハナカミキリ						④
193			トラフカミキリ				NT		④
194	ハチ目	スズメバチ科	*Parapolybia* 属						④
195			キアシナガバチ本土亜種						①
196			ヒメスズメバチ						⑦
197			キイロスズメバチ						⑦
198			*Vespa* 属						④
199			クロスズメバチ						①
200		クモバチ科	オオモンクロクモバチ						⑦
201		ツチバチ科	ヒメハラナガツチバチ本土亜種						⑦
202		アナバチ科	クロアナバチ本土亜種						①
203		ミツバチ科	ニホンミツバチ						④⑦
204			ナミルリモンハナバチ						⑦
205			キムネクマバチ						①
206			ミツバチ科						④
合計	10 目	51 科	206 種	0 種	0 種	13 種	20 種	0 種	

注 1）種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 30 年度版）」（公益財団法人リバーフロント研究所ウェブサイト）に従った。

注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）

Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）

Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）

EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧

Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）

CR:絶滅危惧 IA 類，EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，N：要注目種

Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

注 3）資料の略号は以下のとおりである。

①：第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）

④：富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物－1973－（昭和 48 年．富沢町誌編さん室編）

⑦：山梨の昆虫　№1～56（昭和 51 年～平成 28 年．甲州昆虫同好会）

6）魚　類

既存資料による調査地域の魚類リストは，表 2.2.8-15 に示すとおりである。7 目 11 科 22 種の魚類が確認されており，アブラハヤ，イワナ類，カジカ等，河川の中流域から上流域にかけて生息する種が中心であった。

表 2.2.8-15　既存資料による魚類リスト

No.	目和名	科和名	種和名	指定・選定状況					資料
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	
1	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ			EN	DD		①②④⑥
2	コイ目	コイ科	コイ						①②④
3			キンブナ			VU			①
4			フナ類						④
5			オイカワ						①②④⑥
6			アブラハヤ						①②④⑥
7			ウグイ						①②④⑥
8			カマツカ						①②④⑥
9		ドジョウ科	ドジョウ			NT	DD		②④⑥
10	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ						①④
11	サケ目	アユ科	アユ						①④⑥
12		サケ科	イワナ類			DD	LP		①④
13			ニジマス						①②
14			サクラマス(ヤマメ)			NT	LP		④
15			サツキマス(アマゴ)			NT	LP		①②⑥
16	ダツ目	メダカ科	メダカ類			VU	VU		④
17	カサゴ目	カジカ科	カジカ			NT	N		①②④⑥
18	スズキ目	サンフィッシュ科	オオクチバス						⑥
19		ハゼ科	カワヨシノボリ						①⑥
20			オオヨシノボリ						①
21			ヨシノボリ類						①
22		タイワンドジョウ科	カムルチー						①
合計	7 目	11 科	22 種	0 種	0 種	8 種	7 種	0 種	

注 1）種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成 30 年度版）」（公益財団法人リバーフロント研究所ウェブサイト）に従った。

注 2）指定・選定状況の略号は以下のとおりである。

Ⅰ：文化財保護法（昭和 25 年．法律第 214 号）

Ⅱ：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年．法律第 75 号）

Ⅲ：環境省レッドリスト 2019 の公表について（環境省ウェブサイト）

EN：絶滅危惧 IB 類，VU：絶滅危惧Ⅱ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足

Ⅳ：山梨県 レッドデータブックの改訂（平成 30 年 3 月公開）（山梨県ウェブサイト）

VU：絶滅危惧Ⅱ類，DD：情報不足，LP：絶滅のおそれのある地域個体群，N：要注目種

Ⅴ：山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例（平成 19 年 7 月 9 日．山梨県条例第 34 号）

注 3）資料の略号は以下のとおりである。

①：第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査　動物（環境省自然環境局生物多様性センター　自然環境調査 Web-GIS）

②：山梨県の野生動物（昭和 55 年．山梨県編）

④：富沢町誌編さん資料第 2 集　富沢町の動植物－1973－（昭和 48 年．富沢町誌編さん室編）

⑥：山梨県の爬虫類・両生類と魚類（平成 18 年．山梨淡水生物調査会編）

7）天然記念物及び自然記念物（動物）

「山梨の文化財リスト（天然記念物）」（山梨県ウェブサイト），「南部町の文化財」（平成 9 年.南部町教育委員会），「富沢町の文化財」（平成元年.富沢町教育委員会）及び「山梨県自然環境保全条例に基づく自然環境保全地区・自然記念物位置図等について」（山梨県ウェブサイト）によると，調査地域には天然記念物及び自然記念物（動物）は分布していない。

(3) 生態系の状況

調査地域は山梨県の最南端に位置し，静岡県に接する地域である。垂直的には，100m 余りの低地から 1,000m を越える稜線付近までであり，起伏のある山地斜面で多くが占められるほか，河川沿いには，谷底平野としての低地がみられる。

静岡県からの暖地性植物の北上により，植物帯の区分では暖帯に属する地域となるが，県境の標高の高い地域では温帯となる。植生はスギ・ヒノキ・サワラ植林の面積が最も多く，イロハモミジ－ケヤキ群集等の自然林やクリ－コナラ群集等の二次林が点在する。河川周辺には住宅地や農地等の土地利用がみられるが，ツルヨシ群集等の自然度の高い植生も分布する。

これらの環境を反映し，山地の樹林環境の生態系が典型的に現れている地域と考えられ，食物連鎖の観点からの上位種としては，哺乳類のキツネ，テン，ツキノワグマ，鳥類のクマタカ，ハヤブサ等が挙げられる。

2.2.9　景観・人と自然との触れ合いの場

(1) 景観資源及び視点場の状況

「富士の国やまなし観光ネット」(公益社団法人やまなし観光推進機構ウェブサイト),「山梨の登山・山岳情報ポータル」(山梨県ウェブサイト),「南部町観光ガイドマップ」(南部町ウェブサイト), 南部町及び地元への聞き取り等によると, 調査地域に存在する景観資源は表 2.2.9-1 に示すとおりであり, 位置は図 2.2.9-1 に示すとおりである。

また,調査地域における不特定多数の人が利用できる施設及び地元住民が日常的に利用する場所のうち, 主要な視点場は表 2.2.9-2(1)～(2)に示すとおりであり, 位置は図 2.2.9-2 に示すとおりである。

表 2.2.9-1　景観資源

No.	分　類	名　称	概　要	資料
1	山岳	篠井山	南アルプス山系。山梨百名山。身延線の車窓から間近に見える山姿は, 標高からは想像できない貫禄がある。山頂付近にはブナを主体とした原生林があり, 四位神社のお堂が安置されている。	①③
2		高ドッキョウ	南アルプス山系。山梨百名山。山梨県最南端の山。頂上は雑木とスズタケに囲まれているが, 富士山方面だけは切り開かれている。	①③
3		南貫ケ岳	貫ケ岳より南へ 40 分上った場所に位置する。展望台が 2 カ所あり, 富士山から駿河湾, 伊豆半島までの大パノラマが広がる。	②③
4		貫ケ岳	南アルプス山系。山梨百名山。頂上は東側がブナ林, 西側がヒノキ林になっていて, 静かではあるが, 眺望には恵まれない。	①③
5		白鳥山	富士・御坂山系。山梨百名山。山梨県最南端の甲駿国境に位置し, 山頂付近からは赤石岳や白峰三山など南アルプスのほか, 左側面に大沢崩を見せる富士山を望むことができる。	①③
6	渓谷	福士川渓谷	篠井山, 青笹山など南アルプス山系支脈の山々から流れ出た福士川が刻み込んだ谷であり, 七ツ釜の滝や, 風吹きの滝などの見どころがある。	③

資料：資料の略号は以下のとおりである。
①「富士の国やまなし観光ネット」(公益社団法人やまなし観光推進機構ウェブサイト)
②「山梨の登山・山岳情報ポータル」(山梨県ウェブサイト)
③「南部町観光ガイドマップ」(南部町ウェブサイト)

表 2.2.9-2(1)　視点場

№.	分　類	名　称	概　要	資料
1	山岳	篠井山	南アルプス山系。山梨百名山。身延線の車窓から間近に見える山姿は，標高からは想像できない貫禄がある。山頂付近にはブナを主体とした原生林があり，四位神社のお堂が安置されている。	①③
2		高ドッキョウ	南アルプス山系。山梨百名山。山梨県最南端の山。頂上は雑木とスズタケに囲まれているが，富士山方面だけは切り開かれている。	①③
3		貫ケ岳	南アルプス山系。山梨百名山。頂上は東側がブナ林，西側がヒノキ林になっていて，静かではあるが，眺望には恵まれない。	①③
4		白鳥山	富士・御坂山系。山梨百名山。山梨県最南端の甲駿国境に位置し，山頂付近からは赤石岳や白峰三山など南アルプスのほか，左側面に大沢崩を見せる富士山を望むことができる。	①③
5	展望台	平治の段 （南貫ケ岳）	貫ケ岳より南へ 40 分上った場所に位置する。展望台が 2 カ所あり，富士山から駿河湾，伊豆半島までの大パノラマが広がる。	②③
6		十国展望台	貫ヶ岳と南貫ヶ岳を結ぶ登山道に位置する展望台。	③
7		晴海展望台	貫ヶ岳と南貫ヶ岳を結ぶ登山道に位置する展望台。	③
8	公園	森のオアシス	森のオアシス公園は，芝生広場やお弁当広場が整備され四季をじっくり感じることができる空間である。公園からは福士川へ降りられる階段があり，夏には川の水とふれあうことができる。	③
9		六地蔵公園	地蔵様越しに見える富士山は山梨県の新富嶽百景に選ばれた名所でもあり，目の前に広がる山々の景色はまさに絶景である。紅葉も楽しむことができる。	①③
10		西行公園（西行庵）	山梨新富嶽百景に選ばれた盆中の富士。山間から富士山が臨める。公園内には，祈りの石像や石碑，古い石が並び，かつての甲駿往還であり，身延道が通っている。	①③
11		白鳥山森林公園 （恋人の聖地）	富士山をはじめ富士宮市街，富士川，南アルプスなどの山などを見渡すことができる。富士山の眺めは「関東富士見百景」にも選定されており，「恋人の聖地」にも選定されている。	①③

表 2.2.9-2(2)　視点場

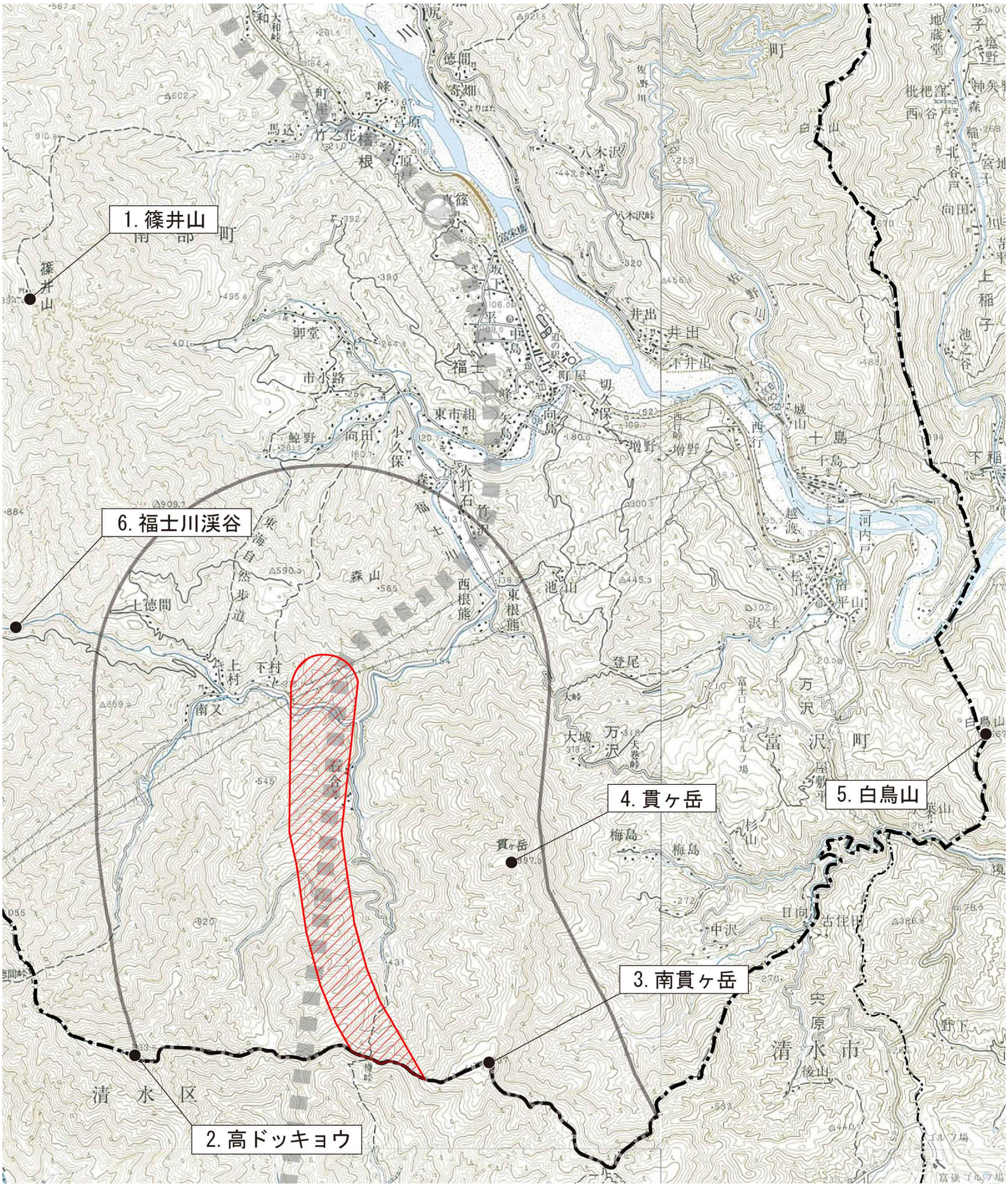
No.	分　類	名　称	概　要	資料
12	観光施設	道の駅とみざわ	国道 52 号線沿いに位置する道の駅。年間 20 万人もの利用客が訪れており，新鮮な野菜を中心に，安全・安心なものなど，地元で取れたものを販売している。	①③
13		山水徳間の里	山水徳間の里は，山間の福士川渓谷にあり，地元の味や，手打ちそばが味わえ，魚のつかみ取りやヤマメ釣りが楽しめる施設である。	③
14	民宿・旅館	先祖	徳間地区の入口付近にある民宿。	③
15		福士川根熊山荘	福士川の中流沿いに位置する山荘。夏は川遊び，秋は紅葉が楽しめる。	③
16	キャンプ場	福士川オートキャンプ場	福士川のほとりにあるキャンプ場。キャンプ場の周りを福士川の清流と深い緑の山々に囲まれており，自然を十分に満喫できる。	③
17		福士川根熊山荘 ファミリーオートキャンプ場	民宿福士川根熊山荘の敷地内にあり，サイトの横を清流福士川が流れている，静かで安心して楽しめる家族向けのキャンプ場。	③
18		ターキーズハウス	福士川に隣接する標高 170m に位置するキャンプ場。キャンプ場からは，福士川へと降りる階段があり，川遊びや釣りが楽しめる。	③
19	公共施設	南部町役場	国道 52 号線沿い，道の駅とみざわ向かいに位置する。	③
20	社寺	八幡神社	県道 802 号線沿いに位置する。	③
21		徳間寺	県道 802 号線から徳間方向へ入った場所に位置する。	③

資料：資料の略号は以下のとおりである。

①「富士の国やまなし観光ネット」（公益社団法人やまなし観光推進機構ウェブサイト）

②「山梨の登山・山岳情報ポータル」（山梨県ウェブサイト）

③「南部町観光ガイドマップ」（南部町ウェブサイト）



【凡　例】

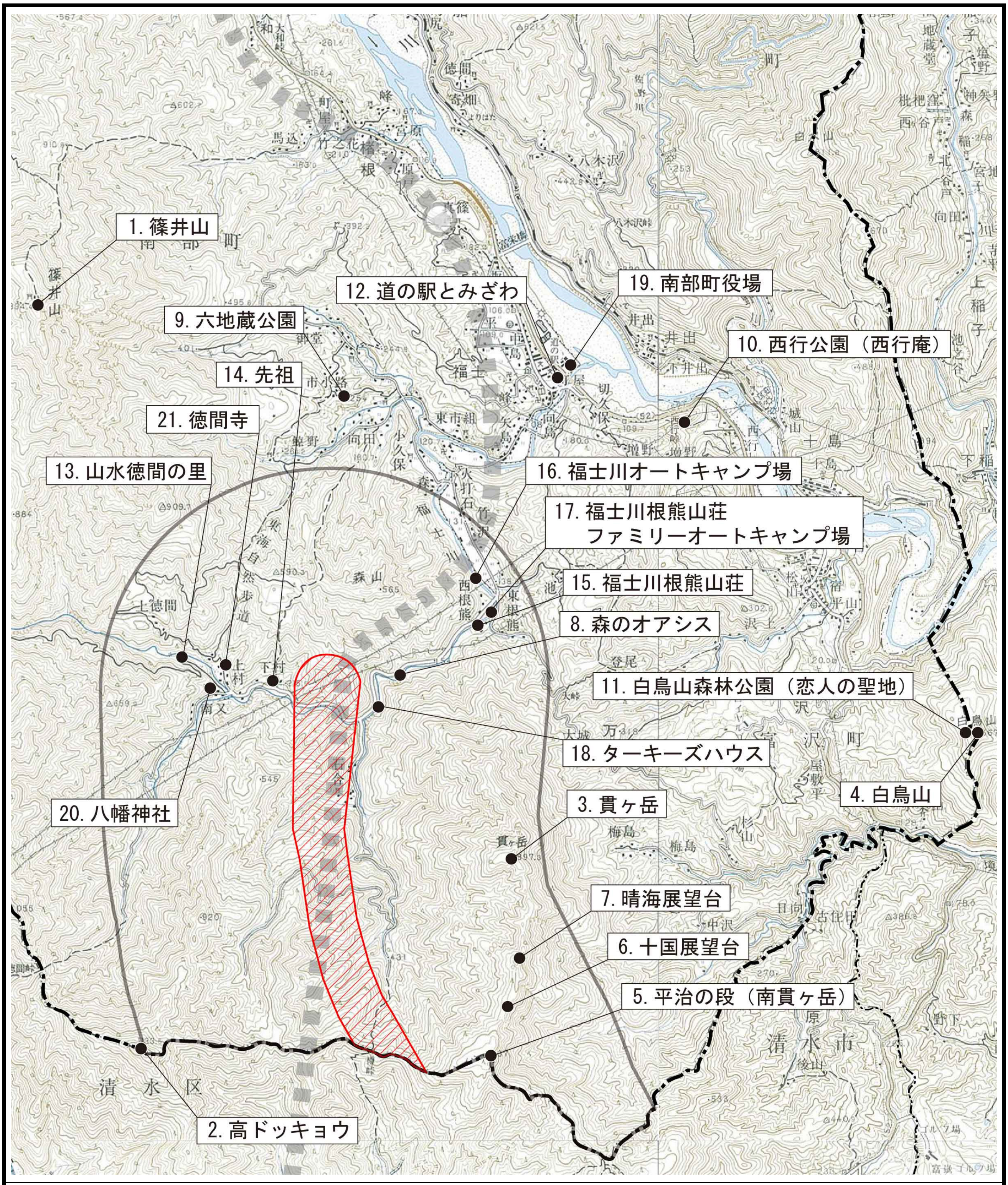
：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：市区町境
：中部横断自動車道（事業中）

N

0　500m　1km　2km

1：60,000

図 2.2.9-1　景観資源



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）

：調査地域

：県境

：市区町境

：中部横断自動車道（事業中）

N

0　500m　1km　2km

1：60,000

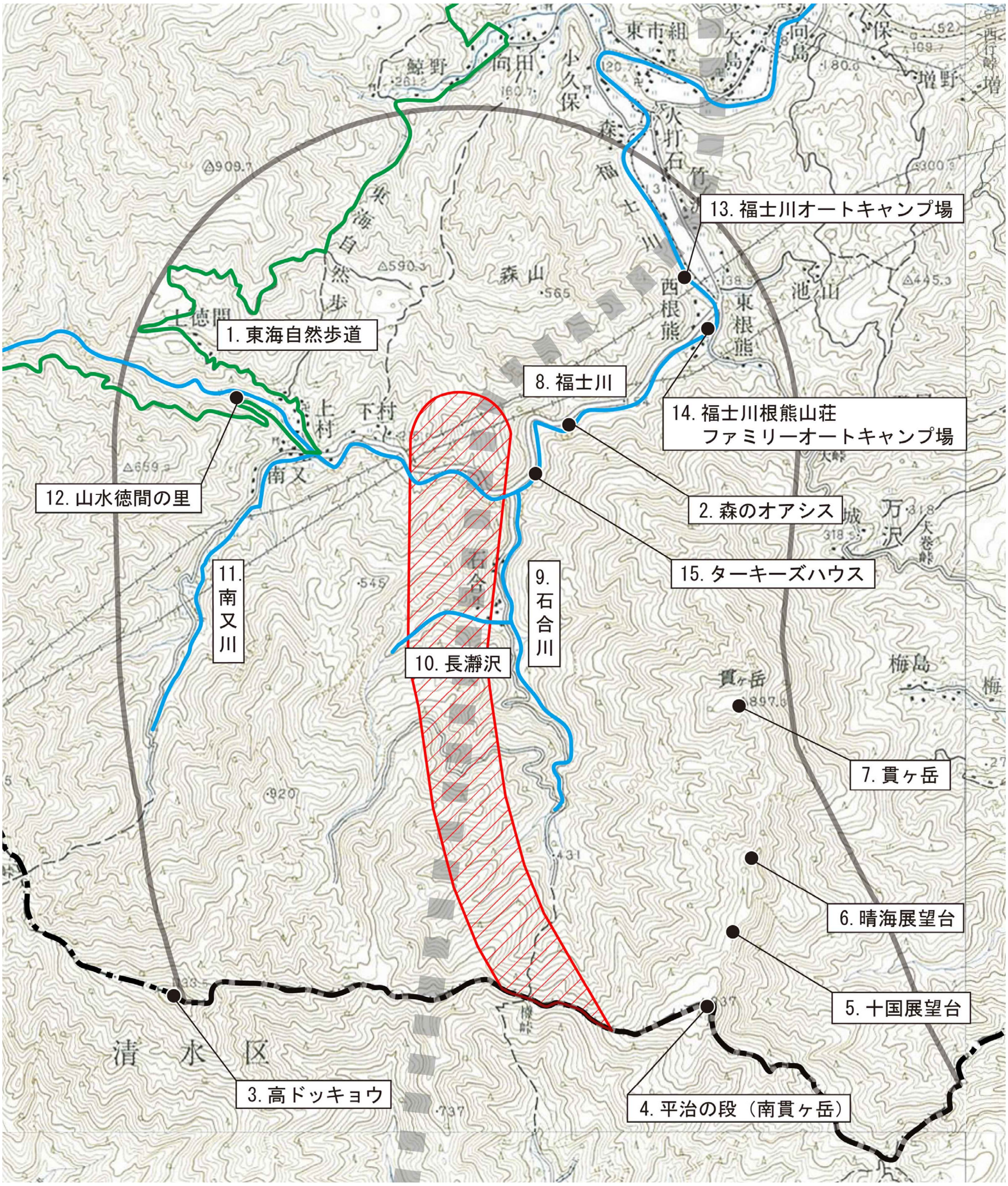
図 2.2.9-2　視点場

(2) 人と自然との触れ合い活動の場の状況

調査地域には人と自然との触れ合い活動の場として,表 2.2.9-3 に示す自然歩道や公園,山岳,キャンプ場があるほか,「遊漁について～釣りをされる方へ～」(山梨県ウェブサイト)によれば,釣り等の遊漁ができる福士川，石合川，長瀞沢，南又川がある。これらの位置は，図 2.2.9-3 に示すとおりである。

表 2.2.9-3　人と自然との触れ合い活動の場

№.	分　類	名　称	概　要
1	自然歩道	東海自然歩道	東海自然歩道は，昭和 45 年から整備が進められた，東京の高尾山から大阪の箕面公園まで全長約 1,700 km，みどり豊かな自然と貴重な歴史文化財を訪ねるコースである。 山梨県内のコースは，総延長約 115km，西から東へたどると次のとおりである。県西の田代峠で山梨県に入り，富士川をこえて天子山塊の長者ヶ岳でいったん静岡県に出て，田貫湖，朝霧高原を通り割石峠で再度山梨県に入る。本栖湖をはじめとした富士五湖や樹海，忍野八海等の名勝をへて富士山の北麓を半周し，丹沢山系の高指山で神奈川県に入る。
2	公園	森のオアシス	森のオアシス公園は，芝生広場やお弁当広場が整備され四季をじっくり感じることができる空間である。公園からは福士川へ降りられる階段があり，夏には川の水とふれあうことができる。
3	山岳	高ドッキョウ	標高 1,134m。山梨県最南端の山。途中，清水湾が見えるポイントがある。
4		平治の段 （南貫ケ岳）	貫ケ岳より南へ 40 分上った場所に位置する。展望台が 2 カ所あり，富士山から駿河湾，伊豆半島までの大パノラマが広がる。
5		十国展望台	貫ヶ岳と南貫ヶ岳を結ぶ登山道に位置する展望台。
6		晴海展望台	貫ヶ岳と南貫ヶ岳を結ぶ登山道に位置する展望台。
7		貫ケ岳	標高 897m。山頂は展望には恵まれないが，途中の「平治の段」近くの展望台からの眺めが良い。
8	釣り	福士川	内共第四号（富士川漁業協同組合）の区域において，ウナギ，アユ，イワナ，アマゴなど 8 種類の魚を釣ることができる。
9		石合川	
10		長瀞沢	
11		南又川	
12	観光施設	山水徳間の里	山水徳間の里は，山間の福士川渓谷にあり，地元の味や，手打ちそばが味わえ，魚のつかみ取りやヤマメ釣りが楽しめる施設である。
13	キャンプ場	福士川オートキャンプ場	福士川のほとりにあるキャンプ場。キャンプ場の周りを福士川の清流と深い緑の山々に囲まれており，自然を十分に満喫できる。
14		福士川根熊山荘 ファミリーオートキャンプ場	民宿福士川根熊山荘の敷地内にあり，サイトの横を清流福士川が流れている，静かで安心して楽しめる家族向けのキャンプ場。
15		ターキーズハウス	福士川に隣接する標高 170m に位置するキャンプ場。キャンプ場からは，福士川へと降りる階段があり，川遊びや釣りが楽しめる。



【凡　例】

：対象事業実施区域
（ルートゾーン幅約 500m）
：調査地域
：県境
：中部横断自動車道（事業中）
：東海自然歩道
：河川

N

0　500m　1km　2km

1：40,000

図 2.2.9-3　人と自然との触れ合い活動の場

2.2.10　一般環境中の放射性物質

調査地域の最寄りの環境放射能モニタリング調査地点は，「2.2.1　大気環境」で示した南部測定局である（図 2.2.1-1 参照)。「やまなしの環境 2017（平成 29 年度版)」（平成 30 年．山梨県）による空間放射線量率の測定結果は，表 2.2.10-1 に示すとおりである。

表 2.2.10-1　環境放射能モニタリング調査結果

調査内容	調査地点	測定結果 （μSv/h)	測定回数
空間放射線量率 （モニタリングポスト）	南部一般環境大気測定局	0.035～0.086	通年

資料：「やまなしの環境 2017（平成 29 年度版)」（平成 30 年．山梨県）